

令和3年鳥取県山間集落实態調査

【集計結果】

令和3年8月

山間集落实態調査参加市町
鳥取県 中山間地域政策課

目次

1 調査の枠組み	1
1 調査概要.....	1
2 調査の方法.....	1
3 調査対象.....	2
2 調査結果	3
1 人口・世帯数の動向.....	3
① 集落の人口規模と高齢化.....	3
② 世帯構成.....	6
③ 転入・転出の状況.....	8
④ 将来の定住意向と家族のUターン意向.....	9
2 生活の実態.....	13
① 運転免許証.....	13
② 通勤・通学・通園.....	14
③ 通院.....	16
④ 買い物.....	17
⑤ 暮らしの様子.....	20
⑥ 住まいの環境.....	22
⑦ 情報通信機器の活用.....	23
⑧ 災害対策.....	25
3 集落の環境と運営.....	28
① 山林・農地.....	28
② 地域おこし協力隊・集落支援員.....	30
③ 生活環境の相談先、集落活動への参加.....	31
④ 集落を超えた取り組みと地域の課題.....	32

1 調査の枠組み

1 調査概要

中山間地域は少子高齢化、人口の減少が著しく、農地荒廃や集落機能低下等の様々な問題を抱えている。本調査では、特に過疎化及び高齢化の進展が著しい山間地域の最奥部集落に居住する住民の日常生活の状況等を把握し、これまでの中山間地域振興施策の成果を分析して、今後の中山間地域振興施策の検討を行うための基礎資料とすることを目的とし、平成2年から約5年おきに実施している。

2 調査の方法等

1. 調査の内容

・世帯調査及び集落点検調査

- 1) 世帯調査：世帯別の生活実態を把握するため、調査対象集落の全世帯に配布、調査を行った。
- 2) 集落点検調査：集落全般の内容について把握するため、各集落の代表者から聞き取りを行うとともに各市町が把握している集落情報を調査した。

2. 調査基準日 令和3年5月1日（土）

3. 調査手順

- ・調査票（世帯調査）の配布 令和3年4月中～下旬
- ・調査票の記入期限 世帯調査 令和3年5月末日
集落点検調査 令和3年6月中旬
- ・調査票の回収終了 令和3年8月上旬

4. 調査項目（一例）

・世帯調査

家族の状況、生活範囲、住まいの環境・暮らしの様子、暮らしの安全、家族の進学・就職・Uターンの状況、将来の見込み、山林・農地の所有状況など

・集落点検調査

人口・世帯数・高齢化率、空き家の状況、積雪時の雪かき対応、地域運営組織の意向、集落内の課題など

3 調査対象

(1) 調査対象集落数・世帯数

ア 山間谷部奥地に位置する113集落

平成2年、7年、12年、18年、23年は同一の111集落を調査

平成28年調査から市町の希望により2集落を追加（113集落）

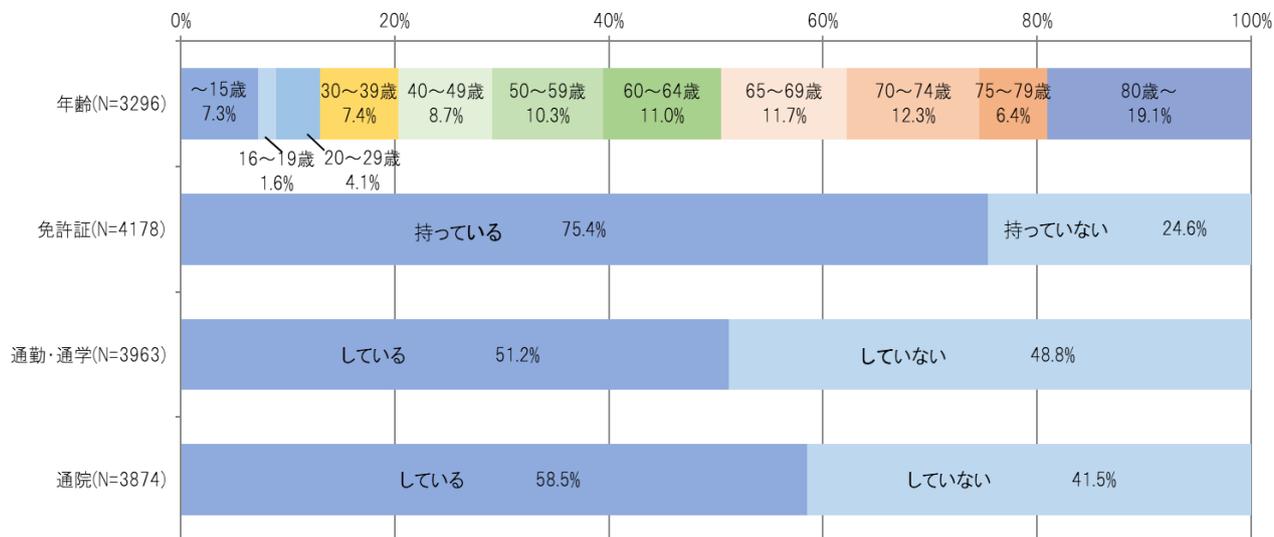
イ 調査対象世帯

アの集落 2,379世帯（平成28年調査から市町の希望により追加した2集落（13世帯）が含まれる。）

【調査対象集落（113集落）の概要】（集落点検調査より）

- ① 世帯規模（中央値） 15世帯
最小集落 1世帯（2集落） 最大集落 93世帯（1集落）
- ② 人口規模（中央値） 37人
最小集落 1人（2集落） 最大集落 203人（1集落）
- ③ 高齢化率（総人口に占める65歳以上の割合）（平均） 49.8%
最小集落 28.6%（2集落） 最大集落 100%（5集落）

【回答者（世帯主）の概要】（世帯調査より）



(2) 回収状況と回収率

【集落点検調査】

113集落（100%）

【世帯調査】

1,776世帯（74.7%）

2 調査結果

表・グラフの見方

前回（平成28年）調査と比較する表は113集落の数値により、平成23年以前の調査と比較する表は調査開始時点の調査集落（111集落）の数値により、それぞれ作成している。

1 人口・世帯数の動向

① 集落の人口規模と高齢化

- ・高齢化率は進行し、平均で49.8%となっている。
- ・集落の人口規模・世帯規模は共に縮小しており、人口では29人以下、世帯数では15世帯以下の規模の集落が増加している。

（1）人口・世帯数・高齢化率の推移 《集落点検調査より》

区分	平成7年	平成12年	H7との差	平成18年	H12との差	平成23年	H18との差	平成28年	H23との差	令和3年	H28との差
	集落人口(人)	11,006	9,620	-1,386	8,870	-750	7,844	-1,026	6,766	-1,078	5,926
	100.0%	87.4%	-12.6%	80.6%	-6.8%	71.3%	-9.3%	61.5%	-9.8%	53.8%	-7.6%
県全体	614,929	613,289	-1,640	607,012	-6,277	588,418	-18,594	573,648	-14,770	553,847	-19,801
	100.0%	99.7%	-0.3%	98.7%	-1.0%	95.7%	-3.0%	93.3%	-2.4%	90.1%	-3.2%
集落世帯数(世帯)	2,912	2,786	-126	2,736	-50	2,654	-82	2,485	-169	2,366	-119
	100.0%	95.7%	-4.3%	94.0%	-1.7%	91.1%	-2.9%	85.3%	-5.8%	81.3%	-4.1%
県全体	188,866	199,988	11,122	208,526	8,538	211,832	3,306	215,542	3,710	218,964	3,422
	100.0%	105.9%	5.9%	110.4%	4.5%	112.2%	1.8%	114.1%	1.9%	115.9%	1.8%
高齢化率(%)	28.1%	34.5%	6.4%	38.7%	4.2%	40.8%	2.1%	45.5%	4.7%	49.8%	4.3%
県全体	19.3%	22.0%	2.7%	24.1%	2.1%	26.3%	2.2%	29.7%	3.4%	32.5%	2.8%

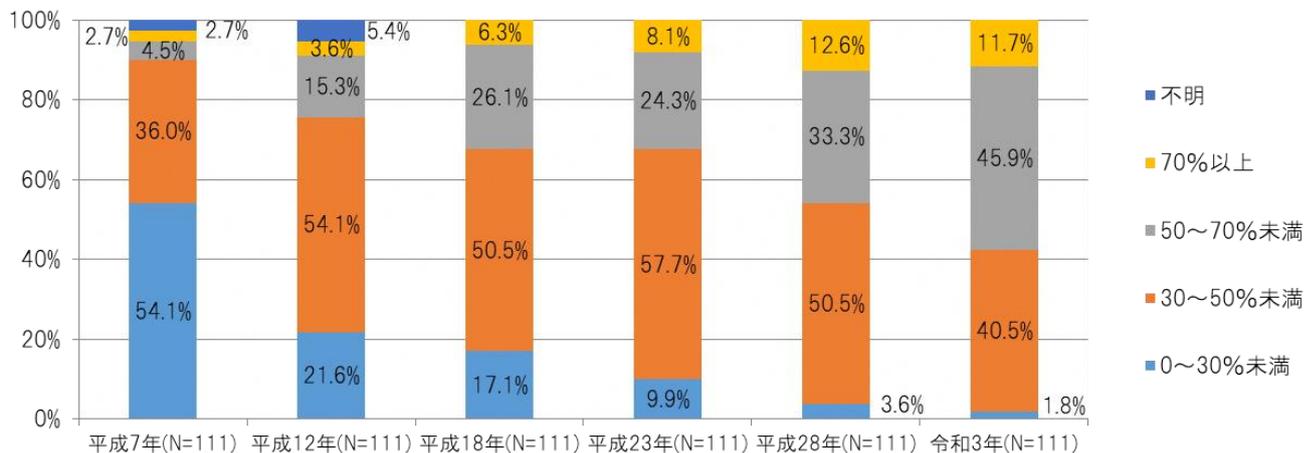
（注1）調査開始時点の調査集落（111集落）の推移

（注2）県全体の数値は「令和2年国勢調査による人口・世帯数（速報値）」、「鳥取県の推計人口（令和2年10月1日現在）」を使用



(2) 高齢化率の推移 《集落点検調査より》

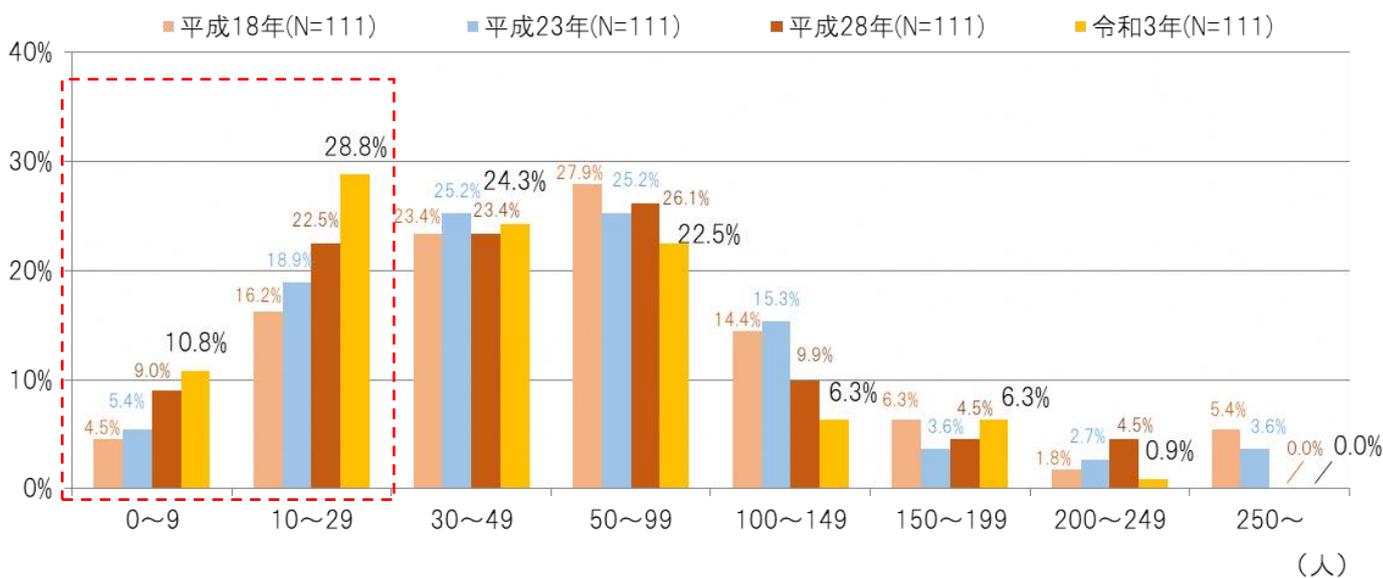
平成7年の調査以降、集落の高齢化が進み、高齢化率が50%以上の集落が57.6%と、半数以上の集落が高齢化率50%を超えている状況。



区分	平成7年	平成12年	平成18年	平成23年	平成28年	令和3年
調査対象集落	28.1%	34.5%	38.7%	40.8%	45.5%	49.8%
県全体	19.3%	22.0%	24.1%	26.3%	29.7%	32.5%

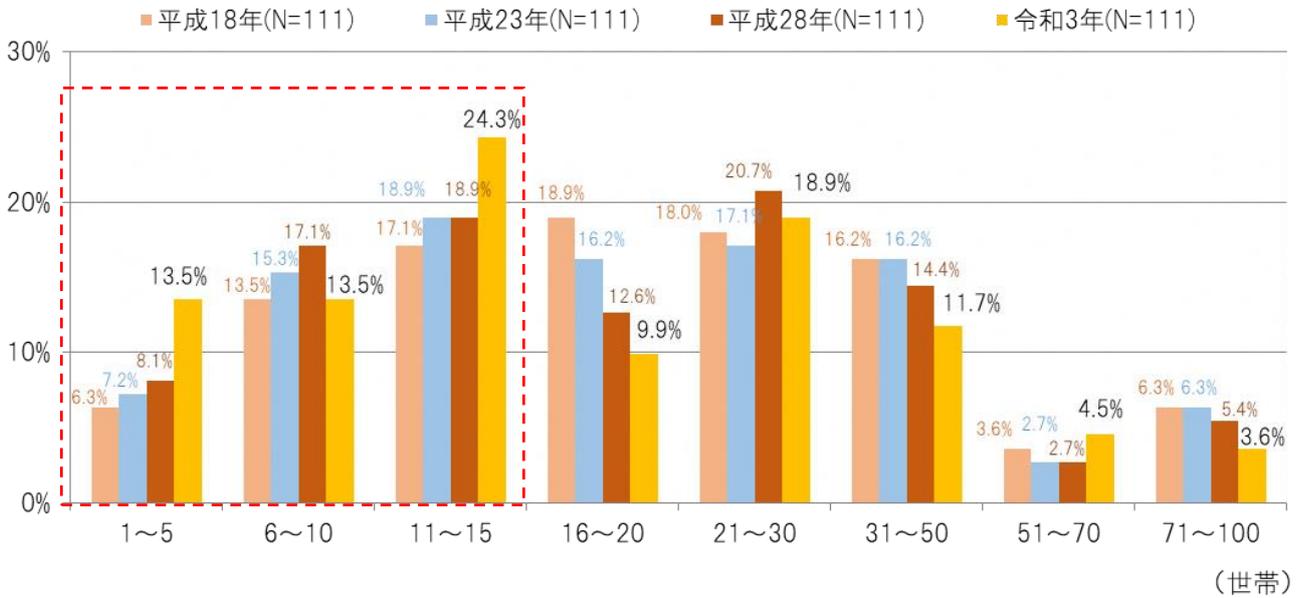
(3) 集落の人口規模の推移 《集落点検調査より》

集落の人口規模は、小型化が進行している状況。



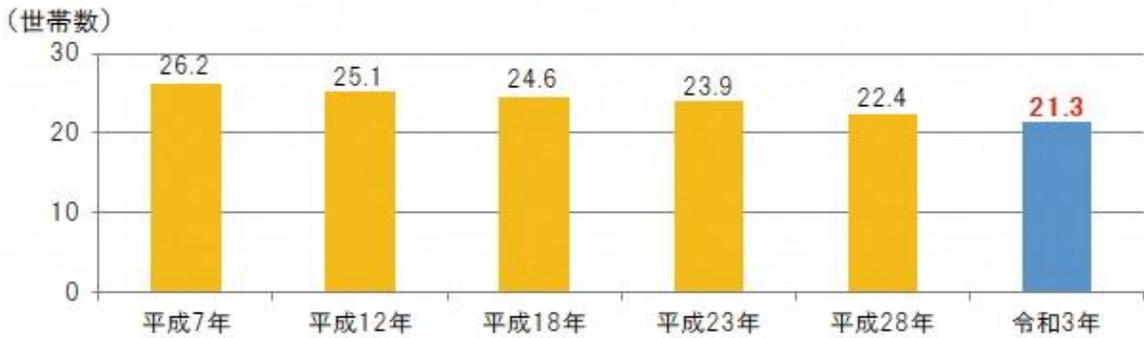
(4) 集落の世帯規模の推移 《集落点検調査より》

集落の世帯規模が少なくなり、集落の小規模化の進行がより早まっている状況。



(5) 集落における世帯数の平均値の推移 《集落点検調査より》

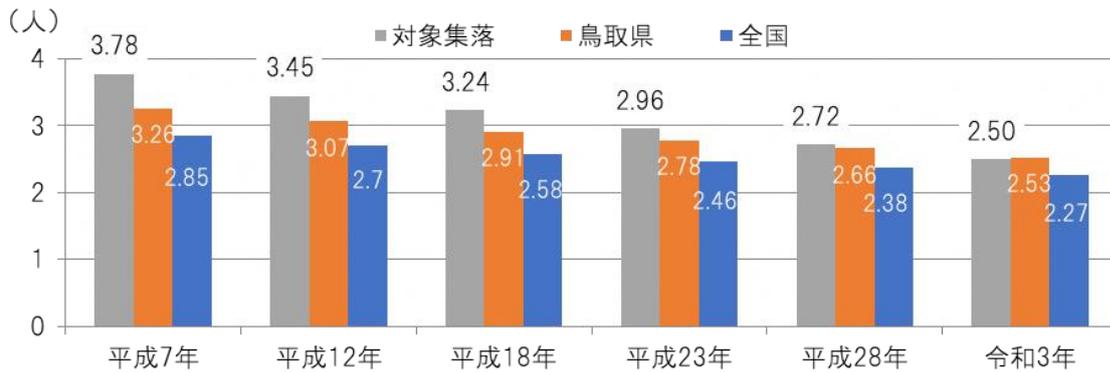
調査対象集落における平均的な世帯数が減少し、集落の小型化が進行している。



② 世帯構成

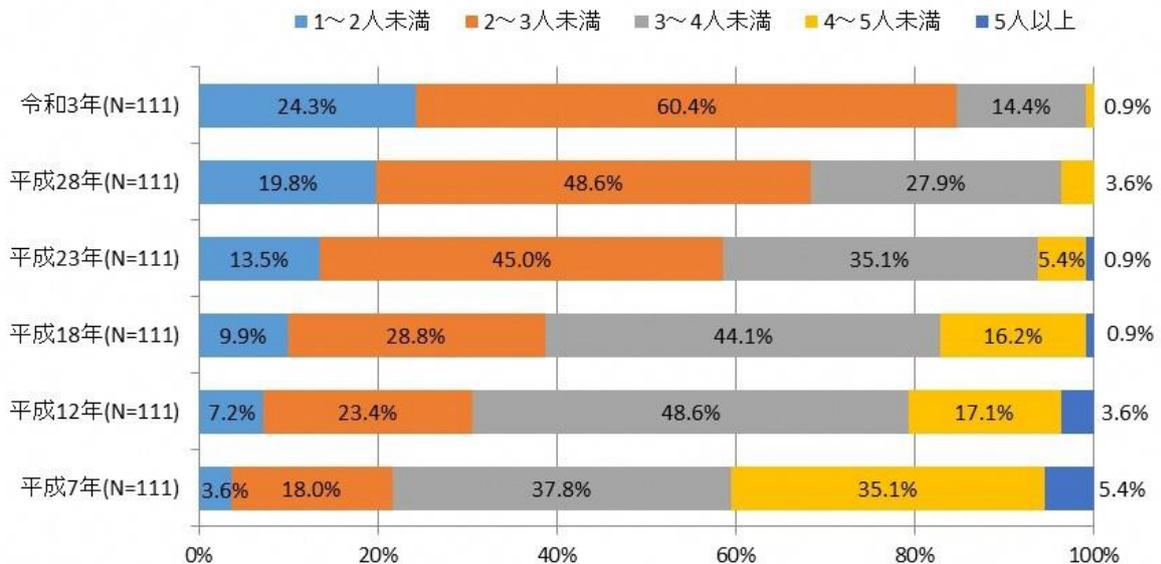
- ・世帯あたりの構成員は減少し、令和3年では平均2.50人となっている。
- ・世帯人口3人以上の世帯が減少し、3人未満の世帯の割合が高くなっている。
また、集落内で独居世帯が50%を超える集落の割合も高くなっている。

(1) 1世帯あたり構成員の推移 《集落点検調査より》

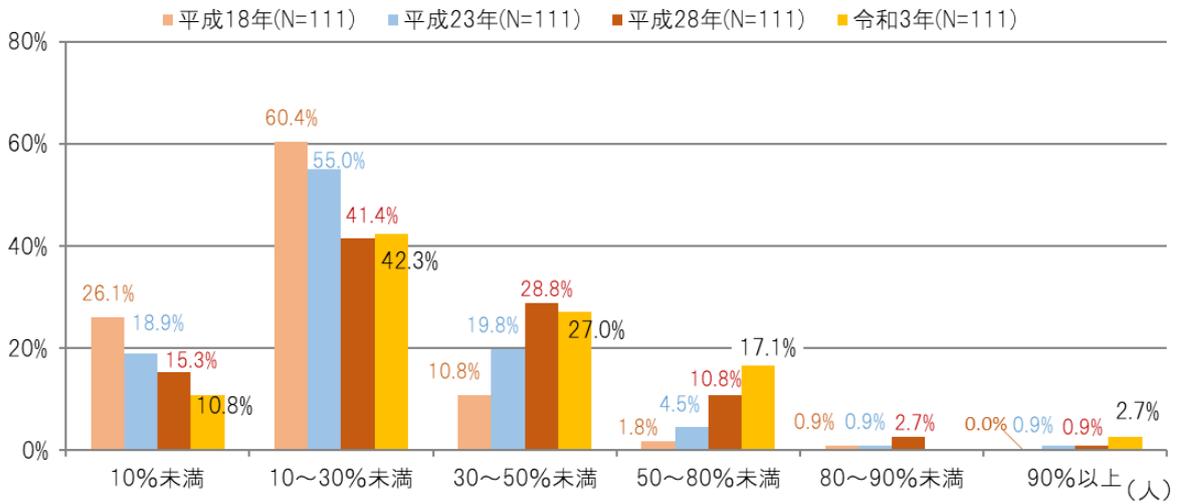


※県全体の数値、鳥取県の数値は「令和2年国勢調査による人口・世帯数（速報値）」を使用

(2) 世帯人口の推移（集落単位） 《集落点検調査より》



(3) 独居世帯の状況 《集落点検調査より》

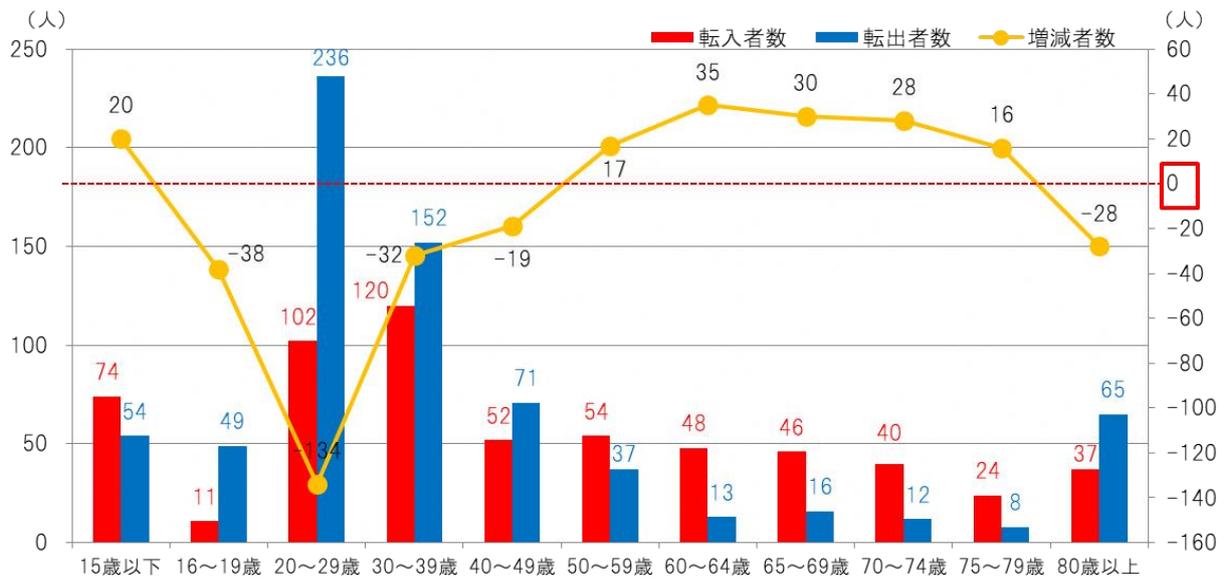


	平成18年	平成23年	平成28年	令和3年
独居世帯	419	507	605	647
独居世帯の割合	15.3%	19.1%	24.3%	27.3%

③ 転入・転出の状況

- ・転入・転出者数はともに20～39歳で多くなっている。
- ・20～29歳で純増減数が134人と大きく減少している一方、30～39歳では転入と転出がほぼ同程度で純増減数が32人の減少に留まっている。
- ・50歳代から70歳代までの各年代で転入が転出を上回っている。

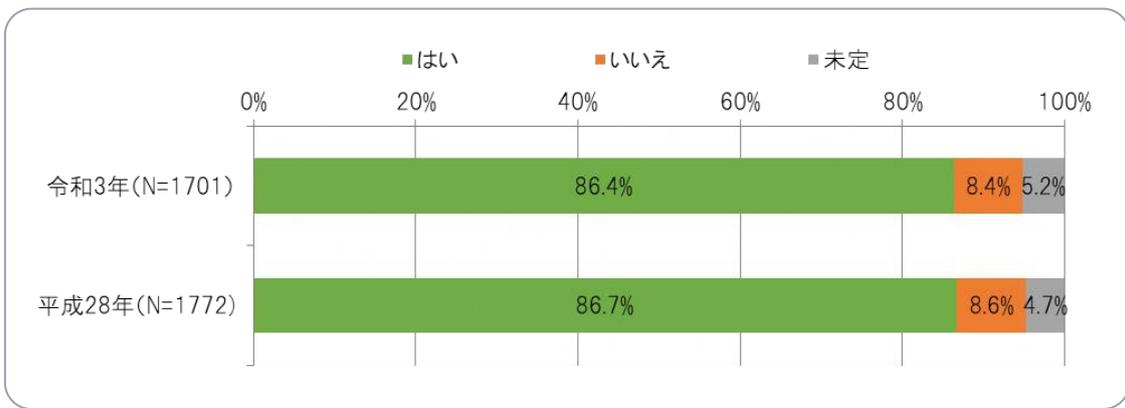
(1) 転入・転出者数(年齢区分別) 《集落点検調査より》



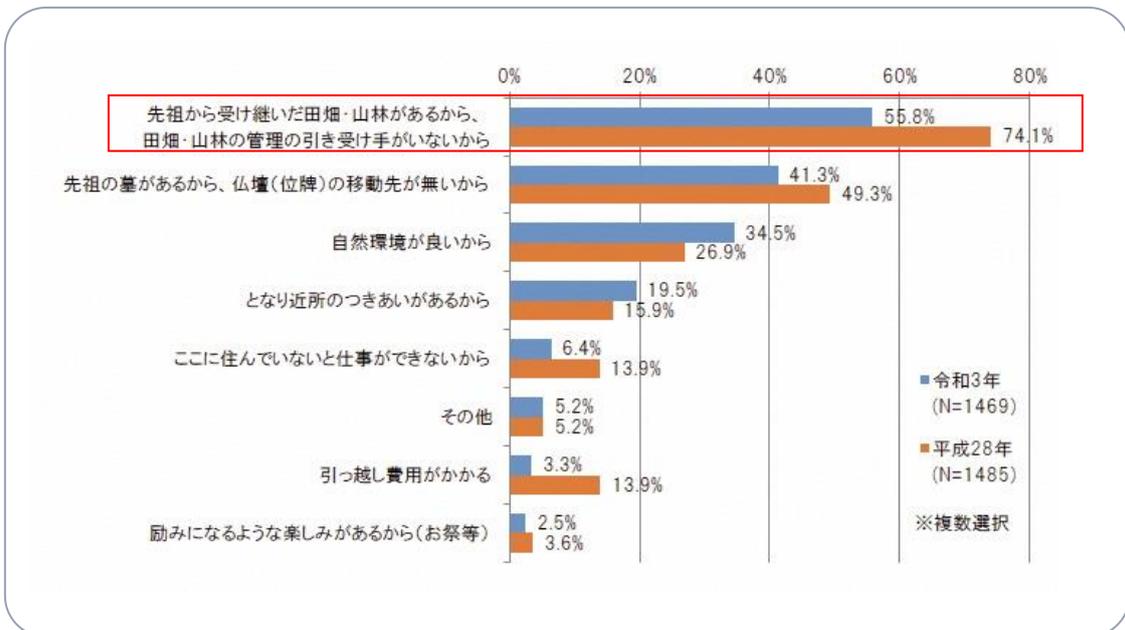
④ 将来の定住意向と家族のUターン意向

- ・集落の定住意向は86.4%が住み続けたいと回答した。
- ・集落に住み続けたい理由として、「先祖から受け継いだ田・畑・山林がある」との回答が55.8%と大半を占めている。また、「自然環境が良いから」との回答が増加している。
- ・今の集落にいつまで住み続けられるかについて、41%の世帯が10年以上住み続けると回答し、29.1%が「わからない・決めていない」と回答した。

(1) あなたはこれからも、この集落に住み続けたいですか。 《世帯調査より》

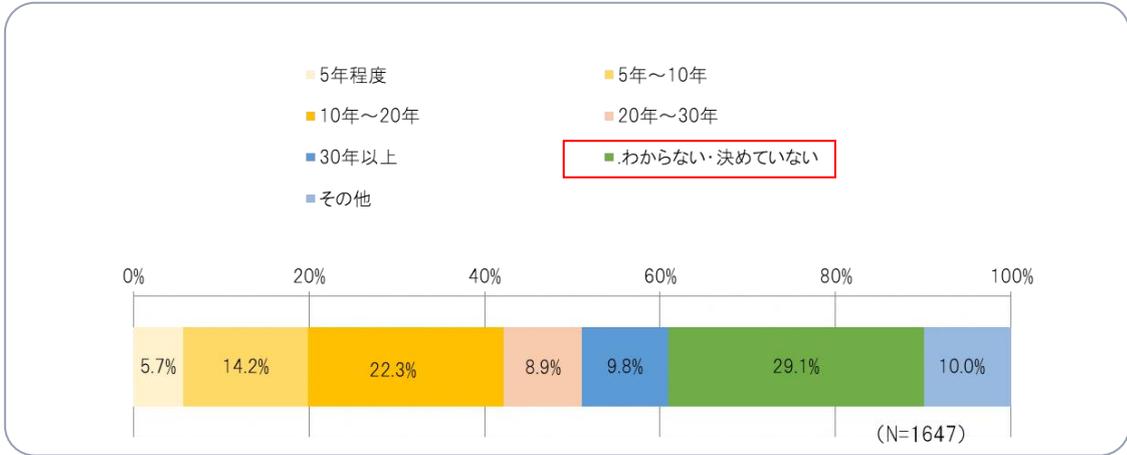


(2) 集落に住み続けたい理由 《世帯調査より》

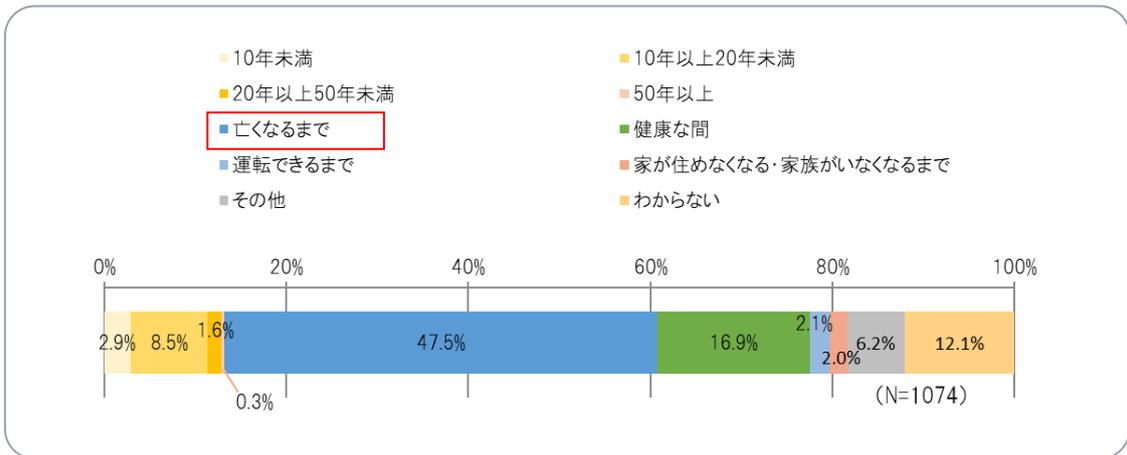


(3) あなたはこの集落に今度どれ位住めると思いますか? 《世帯調査より》

令和3年

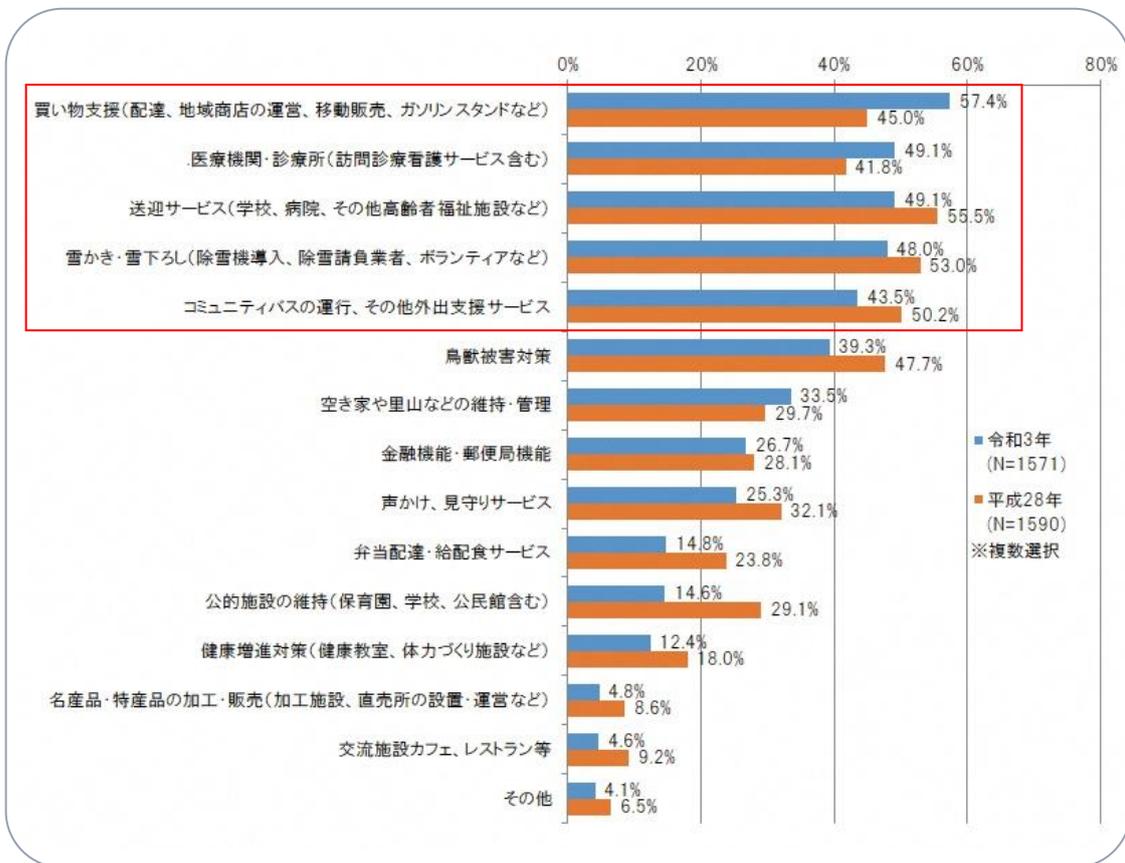


平成28年

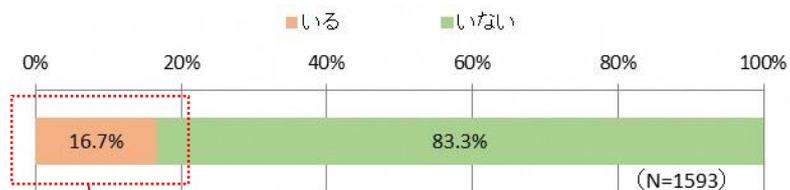


- ・集落で住み続けるために必要なものは、上位5位のうち「送迎サービス」「コミュニティバスの運行」など移動手段の確保が重視されている。
- ・前回調査と比較して「買い物支援」が12.4ポイント増加している。
- ・過去5年以内に集落外へ転居した家族がいる世帯で、47.6%は「帰ってくる予定はない」と回答し、「未定」は35.5%となっている。
- ・子どもや孫のUターンの予定では「未定」との回答が33.6%となっている。

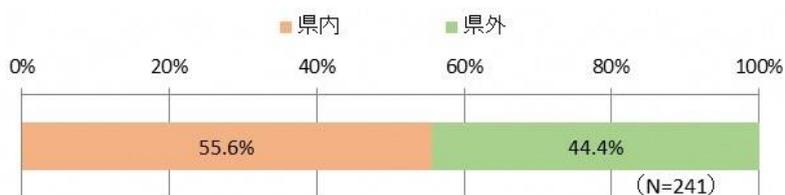
(4) あなたがこの集落に住みつづけるために必要なもの(機能)は何ですか?《世帯調査より》



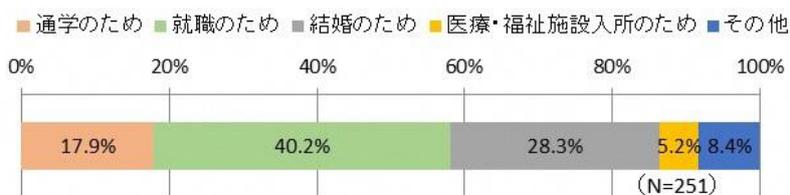
過去5年以内に、集落外へ転居されたご家族がいらっしゃいますか《世帯調査より》



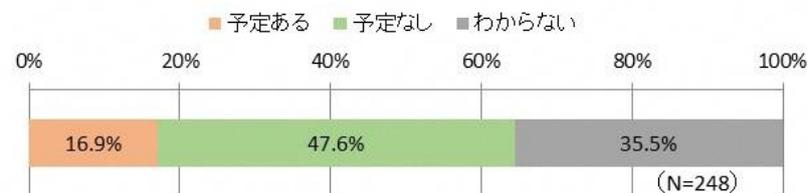
転居先を教えてください



転居の理由を教えてください

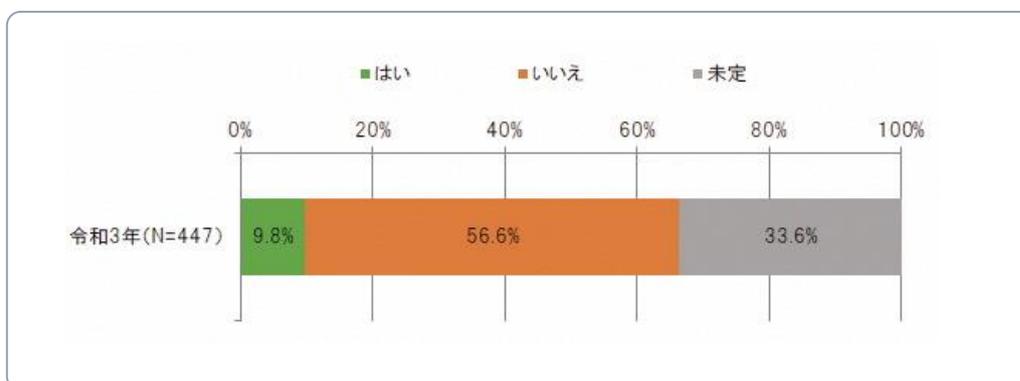


帰ってこられる予定はありますか



(5) お子さんやお孫さんのうち誰か、将来、自宅又は集落内に帰ってくる予定がありますか？

《世帯調査より》

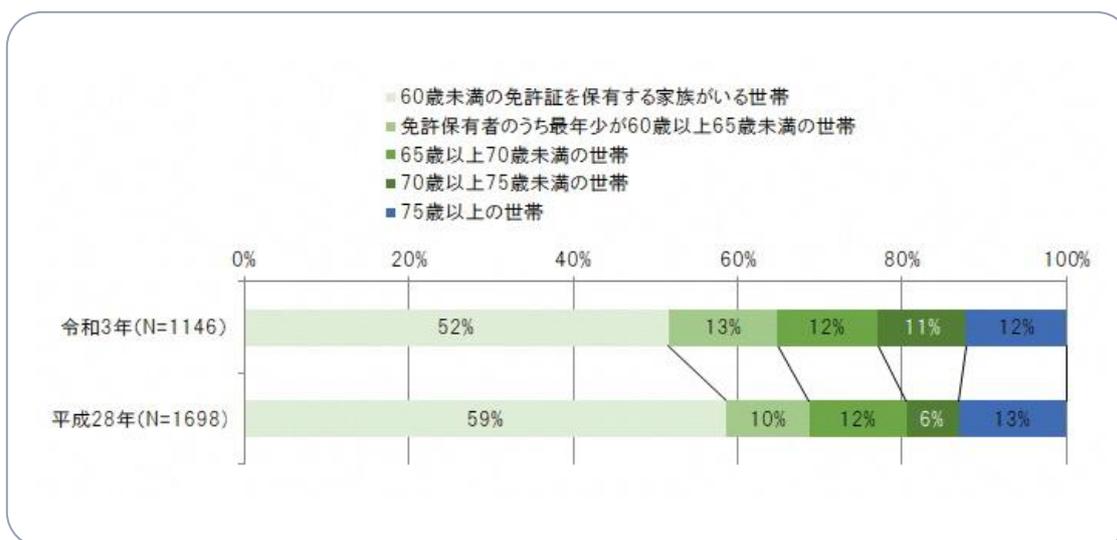


2 生活の実態

① 運転免許証

- ・調査対象集落において、免許を保有する同居家族の年齢を調査したところ、運転免許を保有する65歳以上の高齢者がいる世帯の割合が増加している。

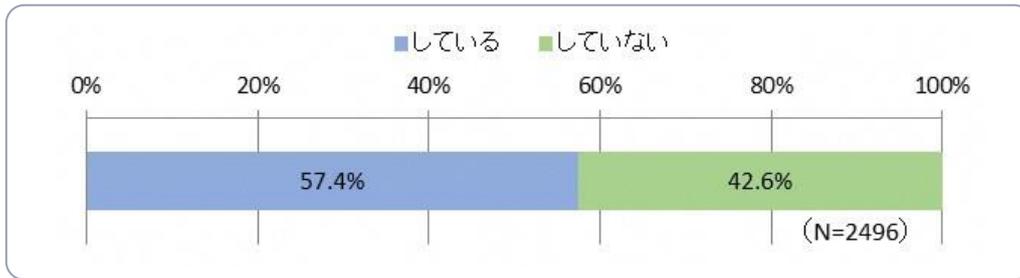
(1) 運転免許を保有している世帯の年齢構成 《世帯調査より》



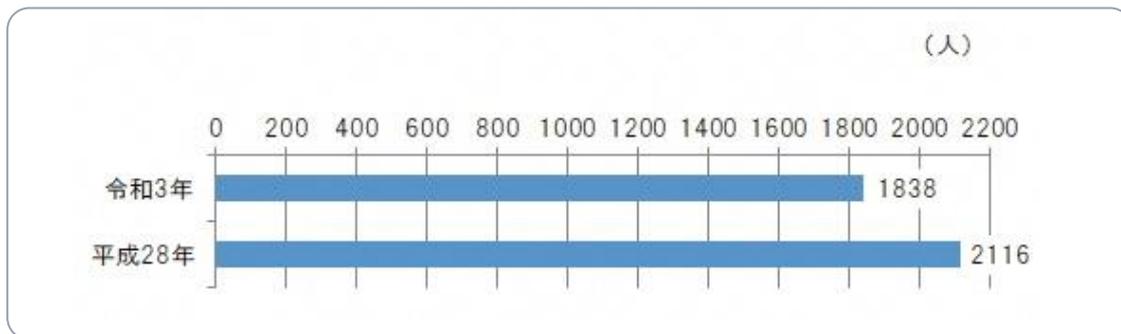
② 通勤・通学・通園

- ・通勤・通学・通園の範囲として、同じ市町村内である割合が平成28年の46%から60.2%へ増加している。
- ・交通手段では、自家用車が89.3%で主な交通手段となっている。

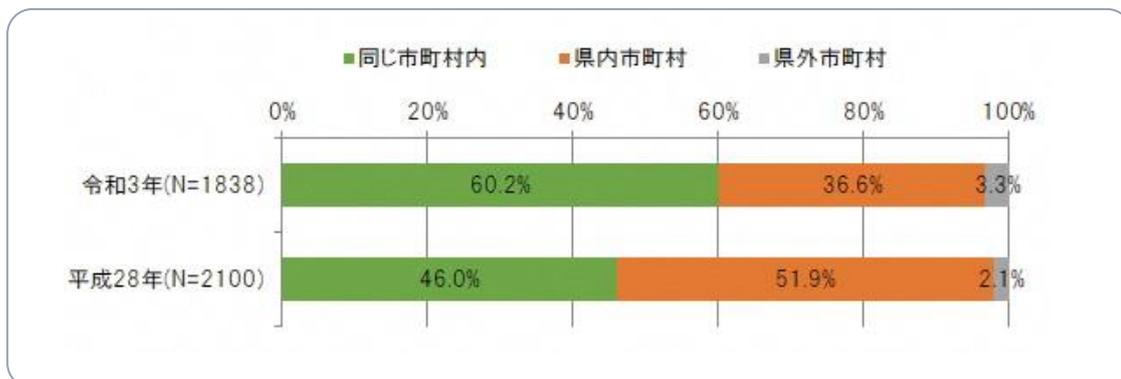
(1) 通勤・通学・通園の有無



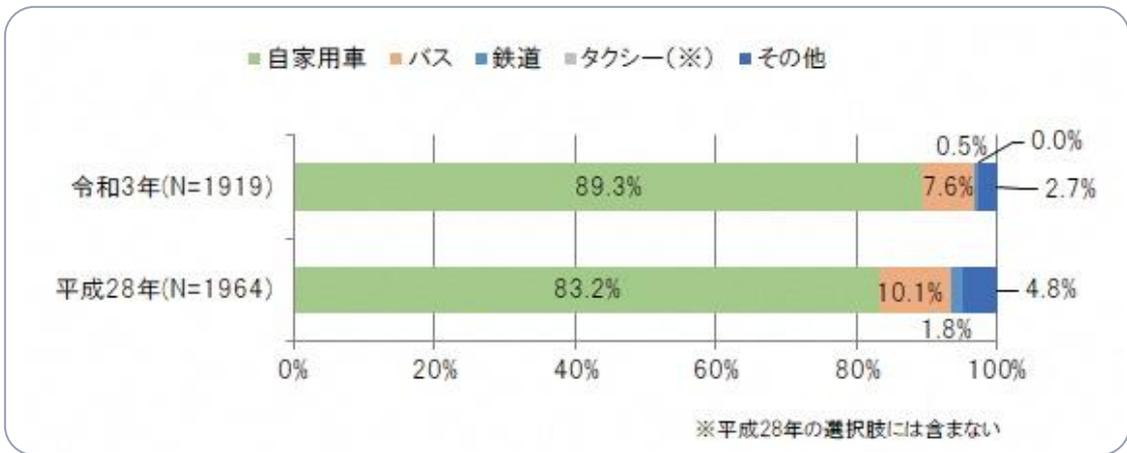
(2) 通勤・通学・通園人数 《世帯調査より》



(3) 通勤・通学・通園の範囲 《世帯調査より》



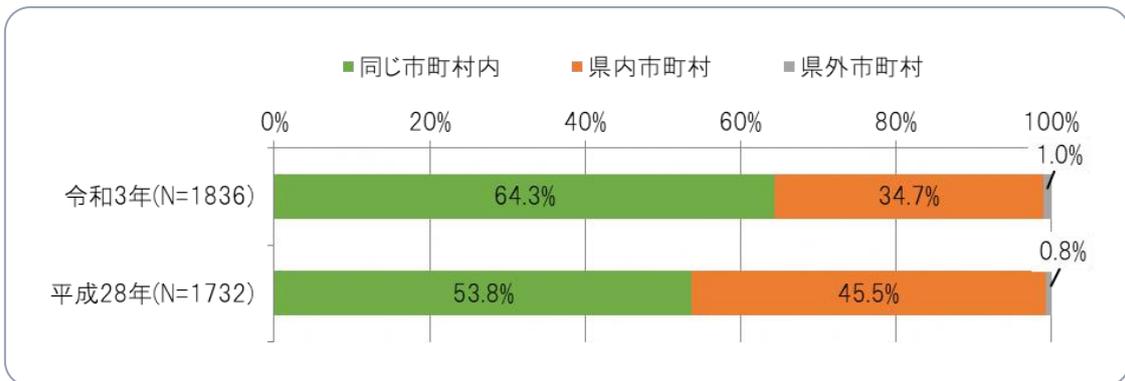
(4) 主な交通手段 《世帯調査より》



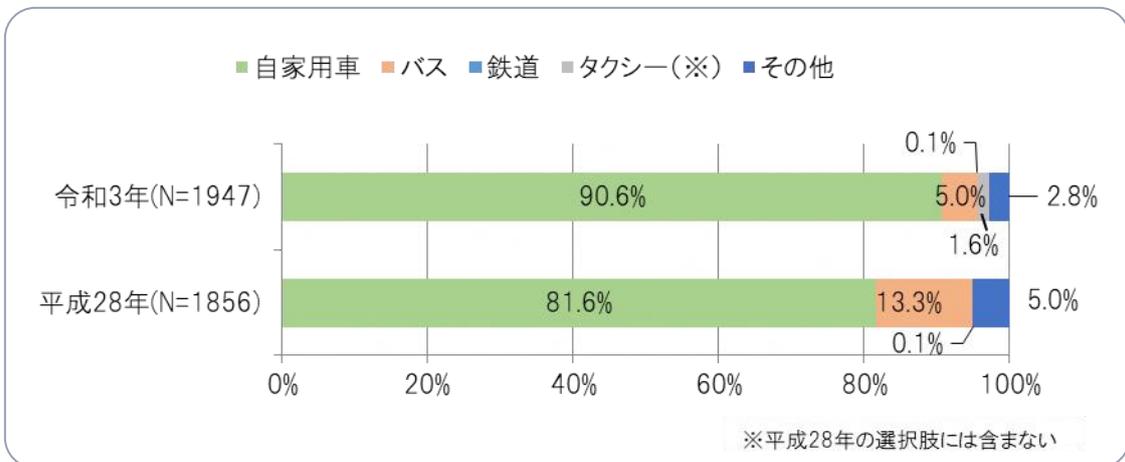
③ 通院

- ・通院の範囲として、平成28年と比較して「同じ市町村内」が増加し「県内市町村」の割合が減少している。
- ・通院の交通手段として、90.6%の方が自家用車を利用しており、公共交通機関の利用は6.7%と通勤・通学・通園と同様に低い状況。

(1) 通院の場所 《世帯調査より》



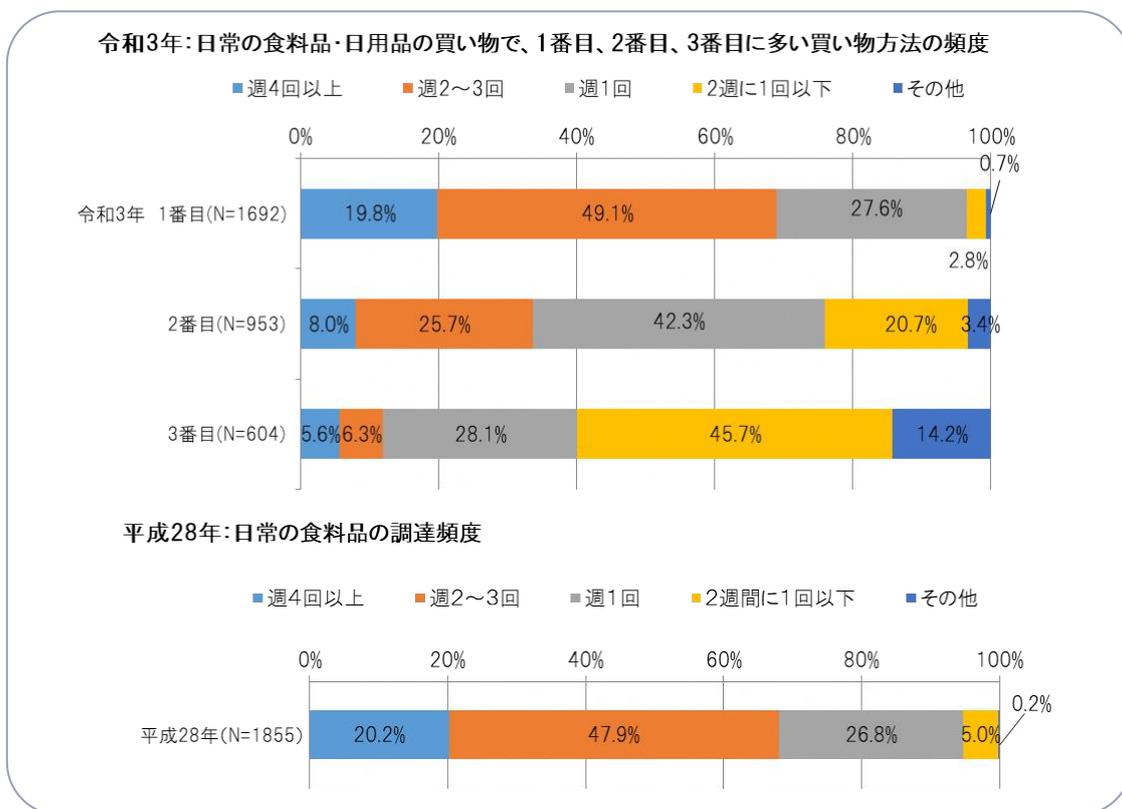
(2) 通院の交通手段 《世帯調査より》



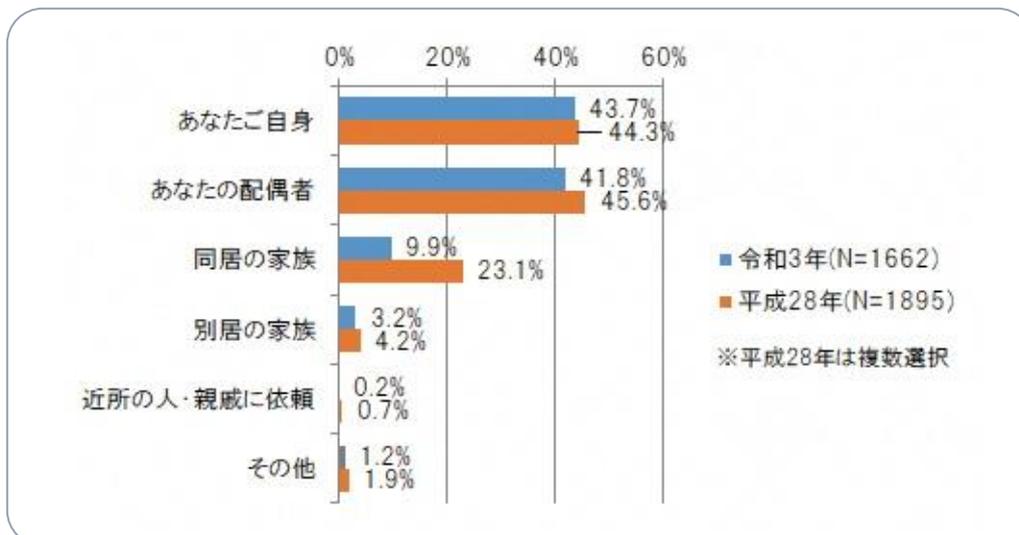
④ 買い物

- ・買い物回数の割合は、平成28年に比較して顕著な差は無い。
- ・町内スーパー・小売店や町外スーパー・小売店などの距離の近い買い物先が、頻度も多くなっている。
- ・3番目に多い方法で、「移動販売」、「生協」、「通信販売」の割合が約3割となっている。
- ・移動販売を利用している世帯が2割あり、週1、2回利用する割合は5割と平成28年と比較して増加している。

(1) 買い物の回数 《世帯調査より》

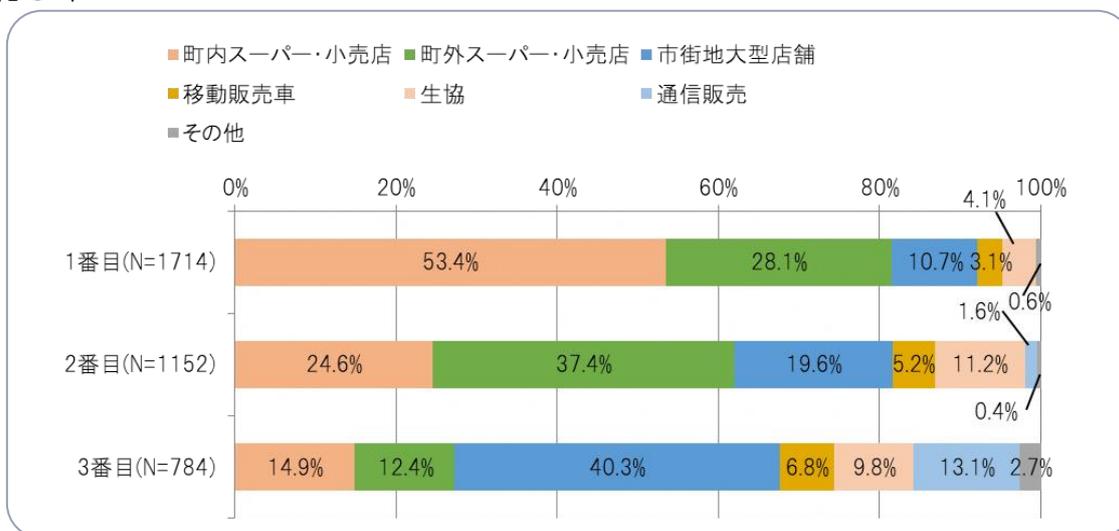


(2) 日常の食料品・日用品は主にだれが調達していますか? 《世帯調査より》

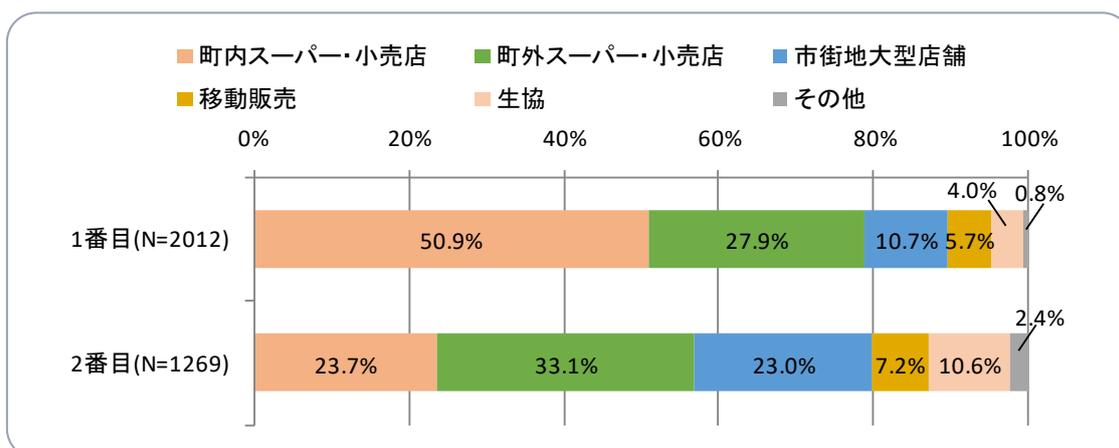


(3) 主な買い物の方法 《世帯調査より》

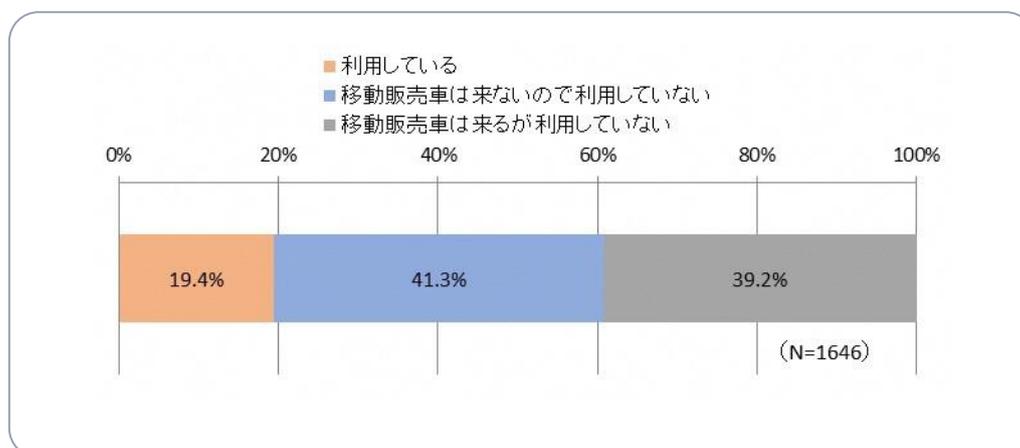
令和3年



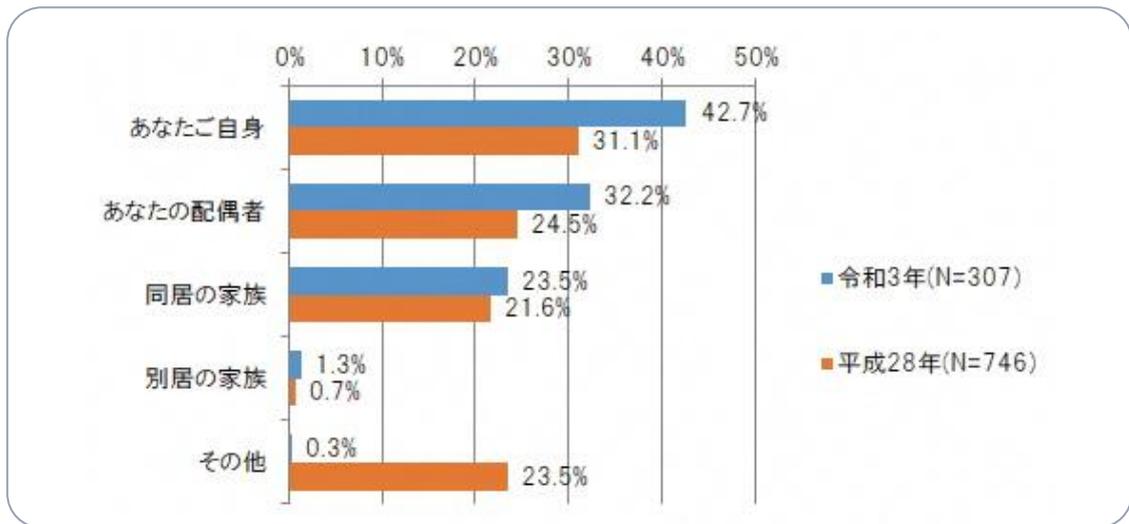
平成28年



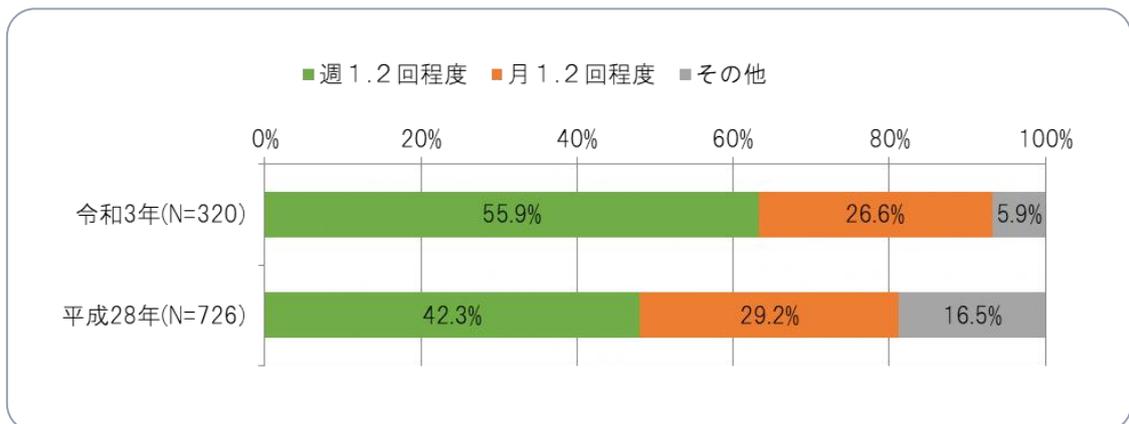
(4) 移動販売車を利用していますか？ 《世帯調査より》



(5) 移動販売車の利用は主に家族の誰が利用していますか？ 《世帯調査より》

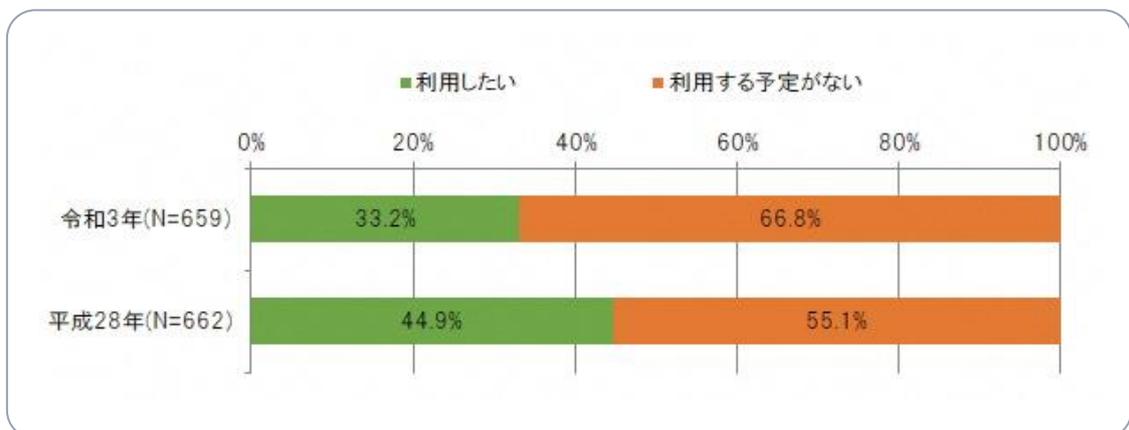


(6) 移動販売車はどの程度利用していますか？ 《世帯調査より》



(7) 移動販売車は来ないので利用していない方に質問です。今後、移動販売車を利用したいと思いますか？

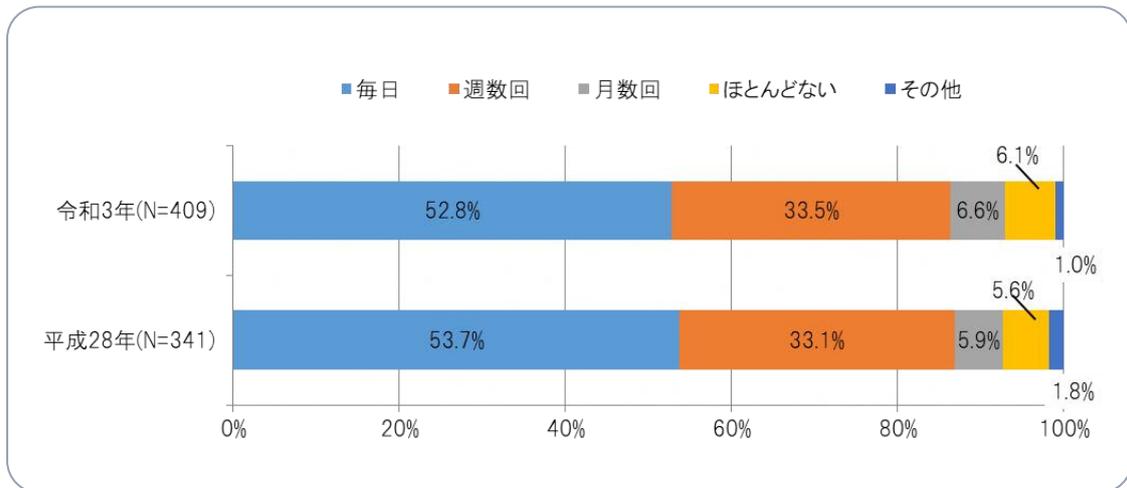
《世帯調査より》



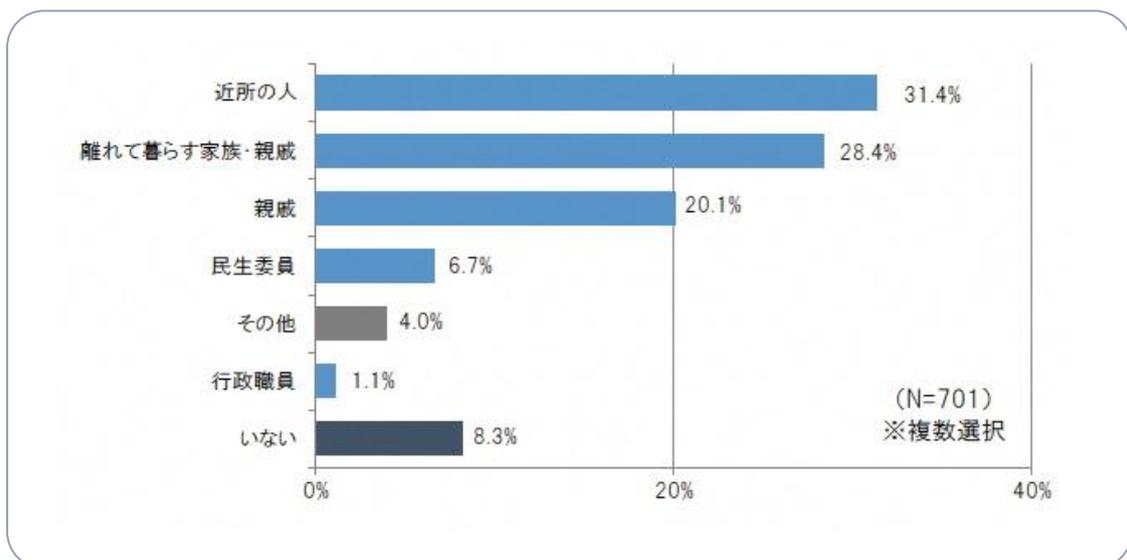
⑤ 暮らしの様子

- ・一人暮らしの方の会話の機会は、平成28年と比較して会話の回数に変化はない。
- ・独居世帯の方への声掛けは、「近所の人」が31.4%と最も多く、次に「離れて暮らす家族・親戚」が28.4%となっている。
- ・離れて暮らす家族・親戚の訪問移動時間は「30～60分未満」が最も多く46.9%となっている。

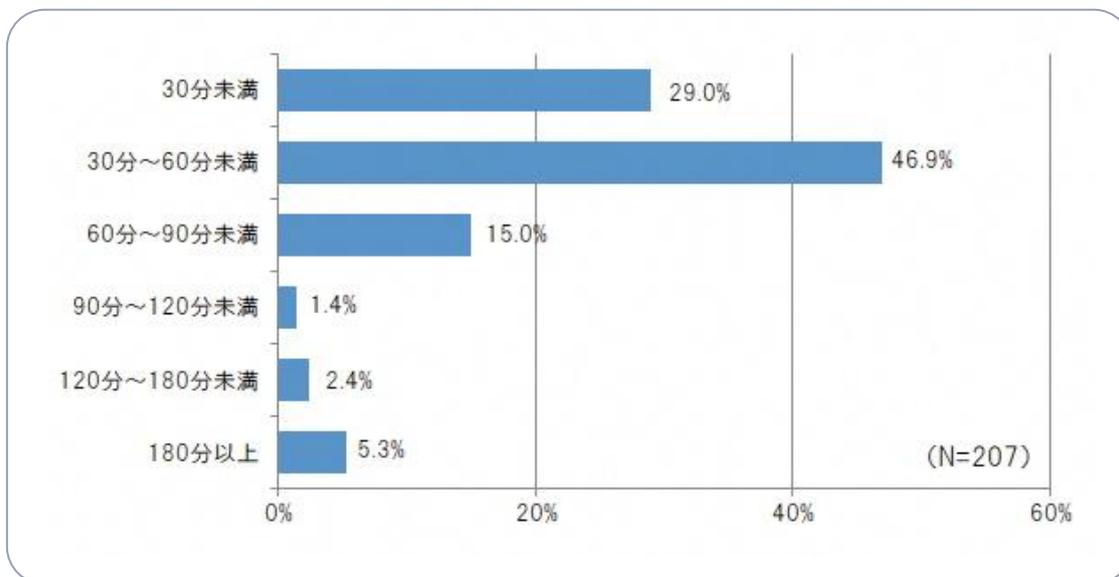
(1) 【一人暮らしの方】誰かと話をする機会はどのくらいですか。 《世帯調査より》



(2) 【一人暮らしの方】定期的に自宅訪問したり、電話連絡など「声かけ」をしてくれたりする方はいますか。 《世帯調査より》

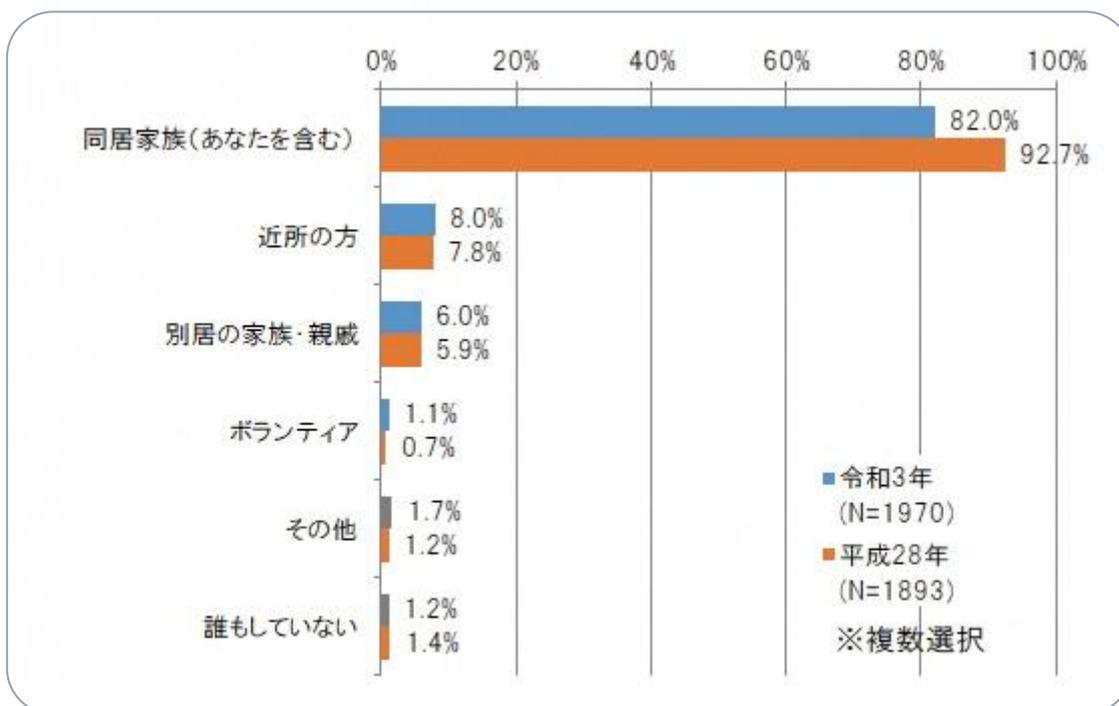


- (3) 離れて暮らす家族・親戚の訪問する場合の片道移動時間の集計 [新規] 《世帯調査より》
 ((2) で「離れて暮らす家族・親戚」を選択した方への設問)



・積雪時の雪かきでは、82.0%が「同居家族（あなたを含む）」と回答しており、平成 28 年の調査と同じ状況。雪かき・雪下ろしのサービスは、住み続けるために必要なサービスとしても上位にあがっている。

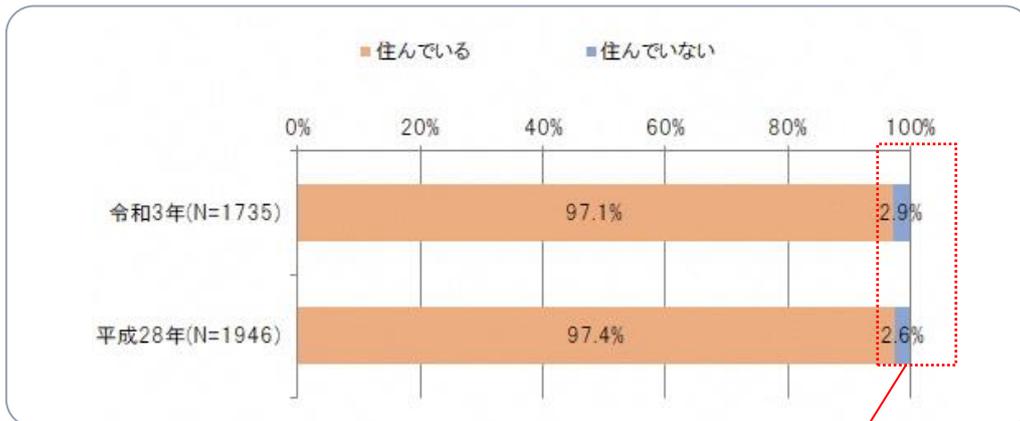
- (4) 積雪時、自宅の雪かきは主に誰がしていますか？ 《世帯調査より》



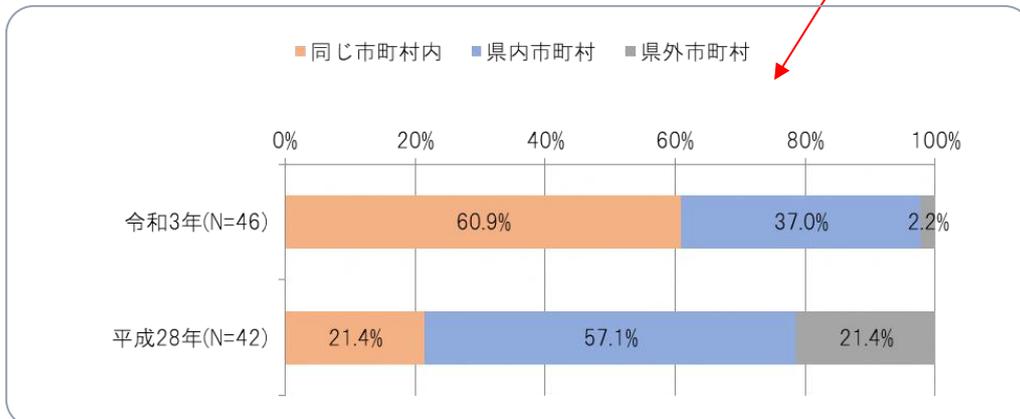
⑥ 住まいの環境

- ・住む家は、97.1%の世帯が現在の家に1年中住んでいると回答し、住んでいない場合には半数以上が同じ市町村内に住んでいると回答した。

(1) 現在住んでいる家は、1年中住んでいますか? 《世帯調査より》



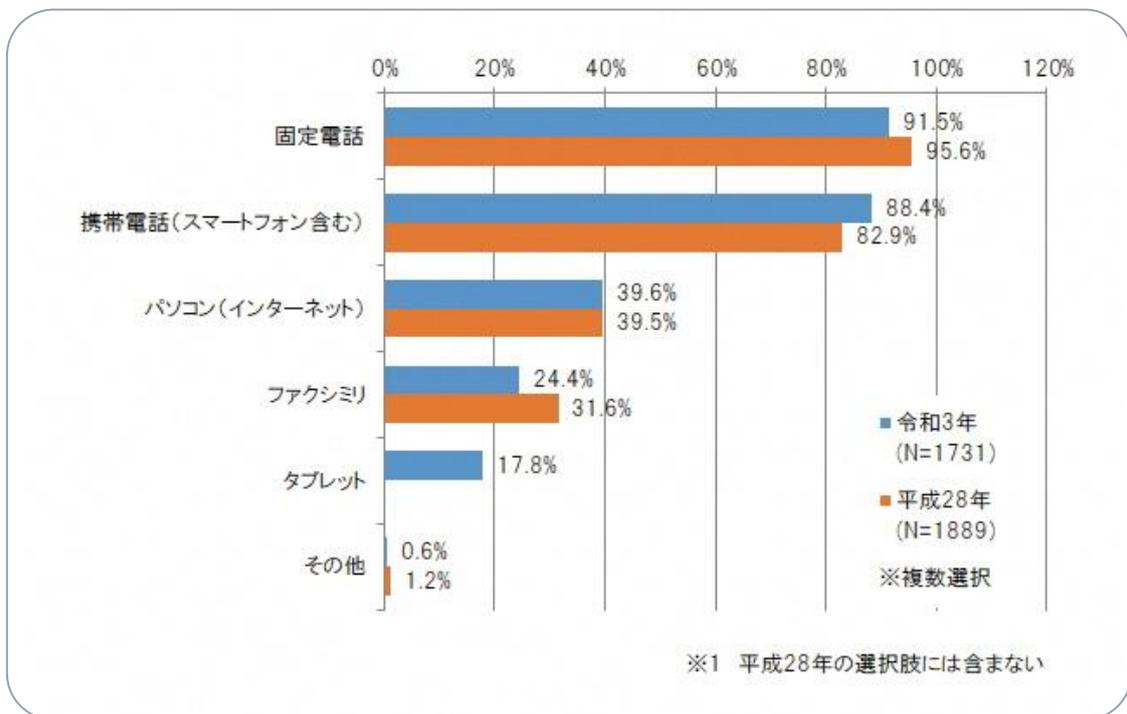
(現在住んでいる家に住んでいない場合の居住地)



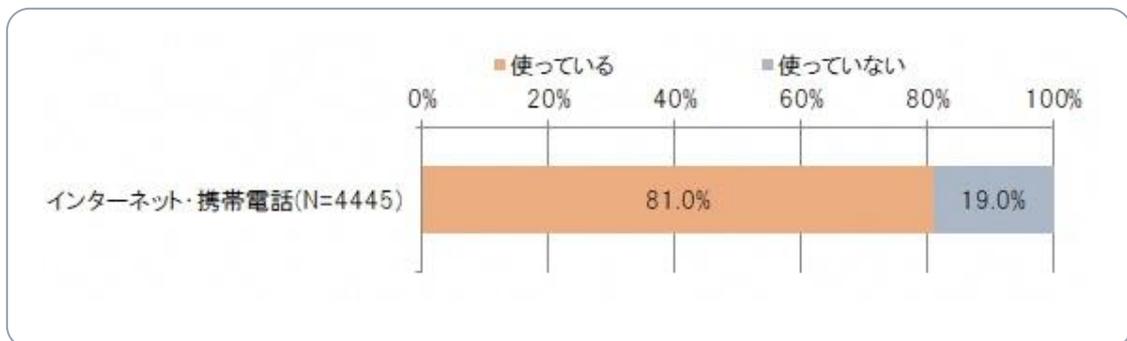
⑦ 情報通信機器の活用

- ・ 自宅にある通信機器では、「固定電話」「携帯電話（スマートフォン含む）」の割合が高く、インターネット・携帯電話の個人利用率は8割を超えている。
また、固定電話を保有する割合が減少し、携帯電話（スマートフォン含む）を保有する割合が増加している。
- ・ 一方、暮らしの安心情報を得る媒体は、「テレビ」「防災無線」「新聞」の順に多い。

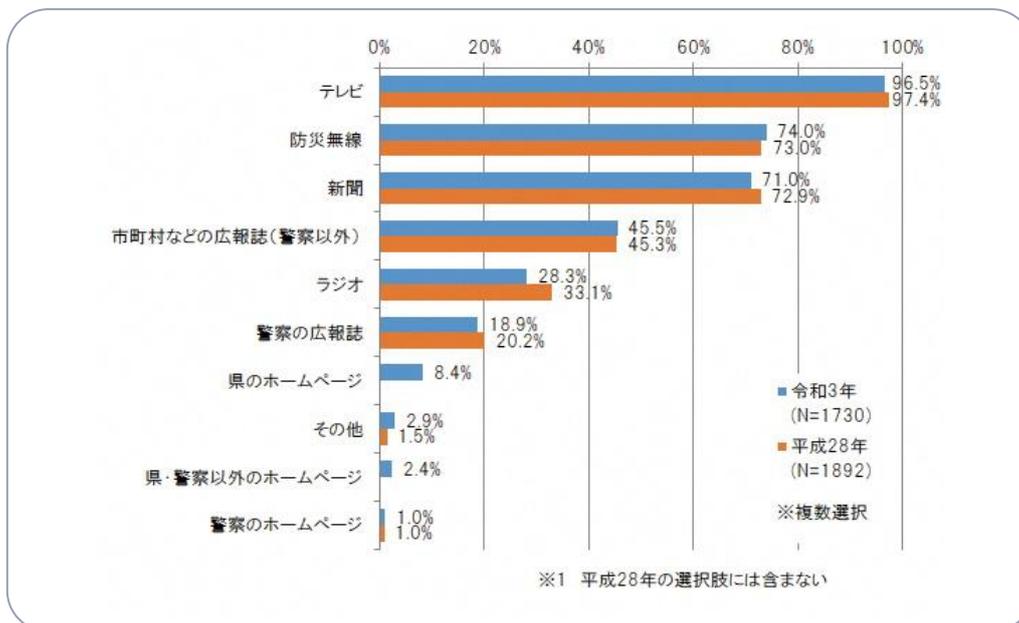
(1) 自宅にある通信機器 《世帯調査より》



(2) インターネット・携帯電話（スマートフォン、タブレット含む）の個人利用状況 《世帯調査より》

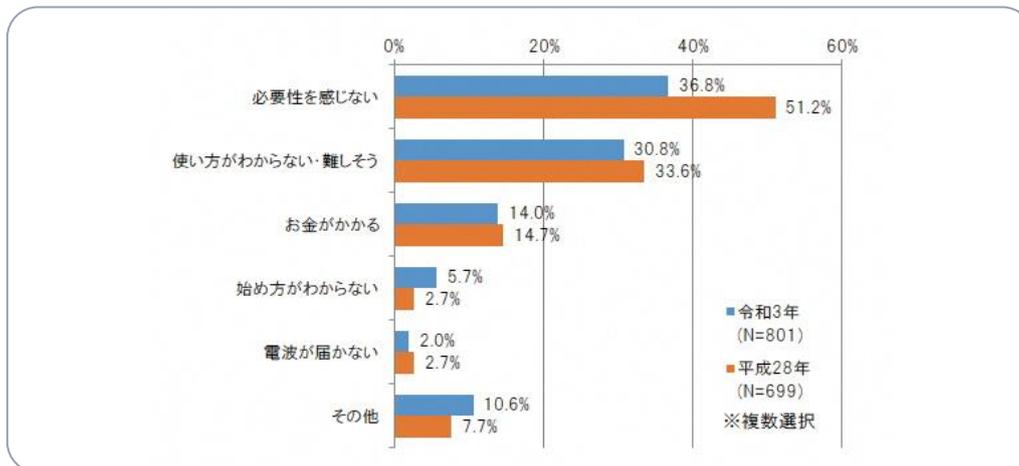


(3) 暮らしの安心情報を得る媒体 《世帯調査より》

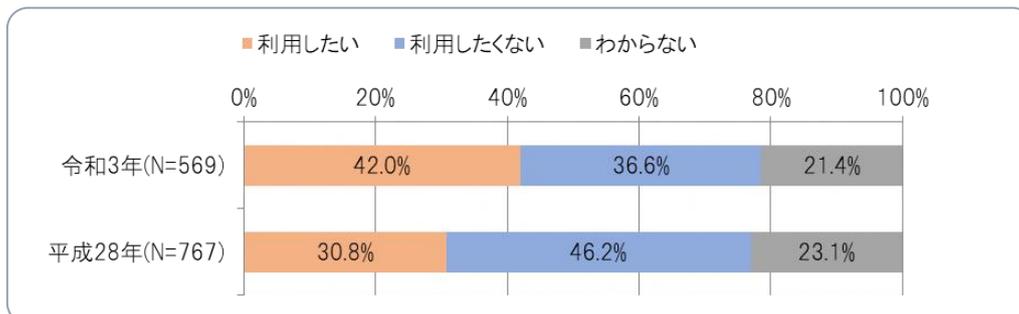


・インターネット・携帯電話を利用していない方の多くは、「必要性を感じない」「使い方がわからない・難しそう」とする回答が多く、平成28年とほぼ同じである。
 また、未利用者は、今後の利用意向として42.0%が「利用したい」と回答しており、平成28年から約10ポイント増加した。

(4) インターネット・携帯電話を利用しない理由 《世帯調査より》



(5) インターネット・携帯電話の今後の利用意向 《世帯調査より》

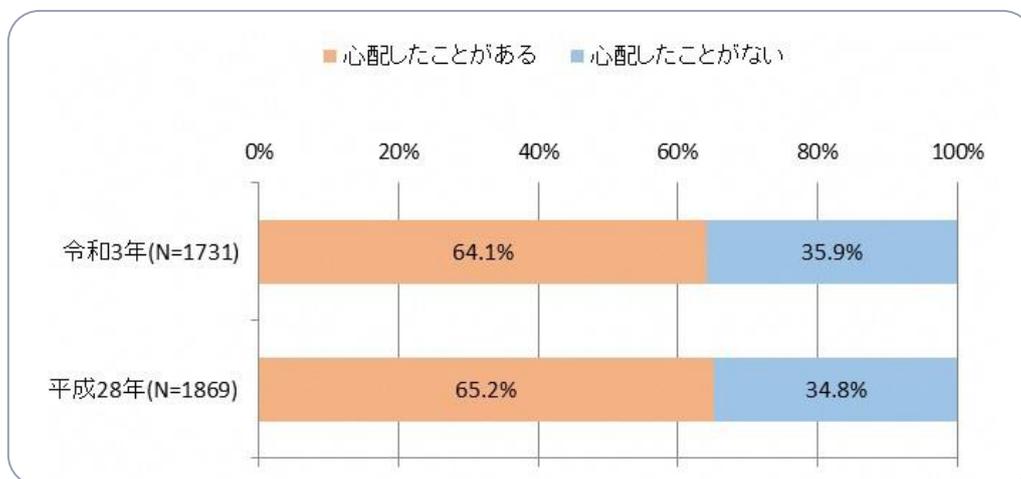


⑧ 災害対策

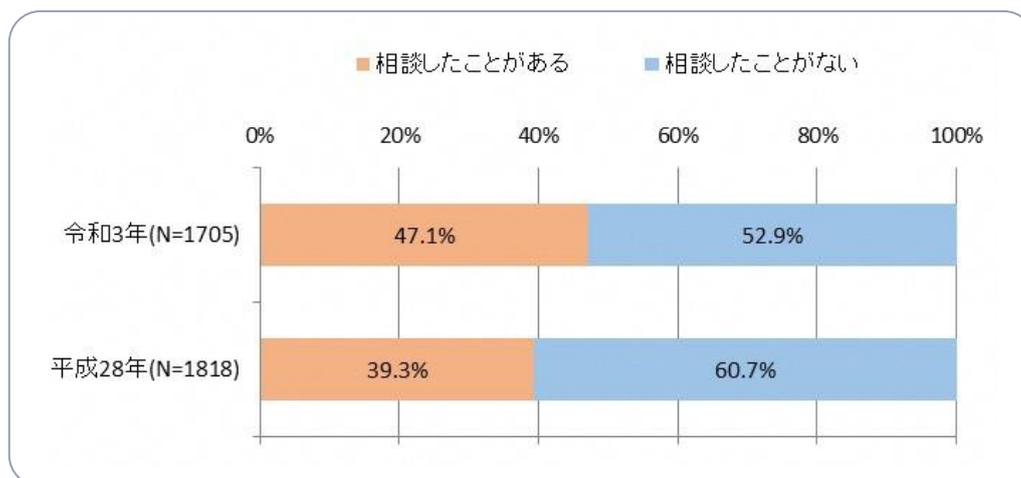
- ・災害時の孤立可能性については、「心配したことがある」の回答が64.1%と、平成28年の調査とほぼ同じである。
- ・災害時における家族との連絡方法については、「相談したことがある」との回答が47.1%と平成28年から7.8ポイント増加し、防災意識が向上していると考えられる一方、52.9%の世帯は依然として「相談したことがない」と回答した。

(1) 災害時（土砂崩れ、大雪など）に孤立する可能性を心配したことはありますか？

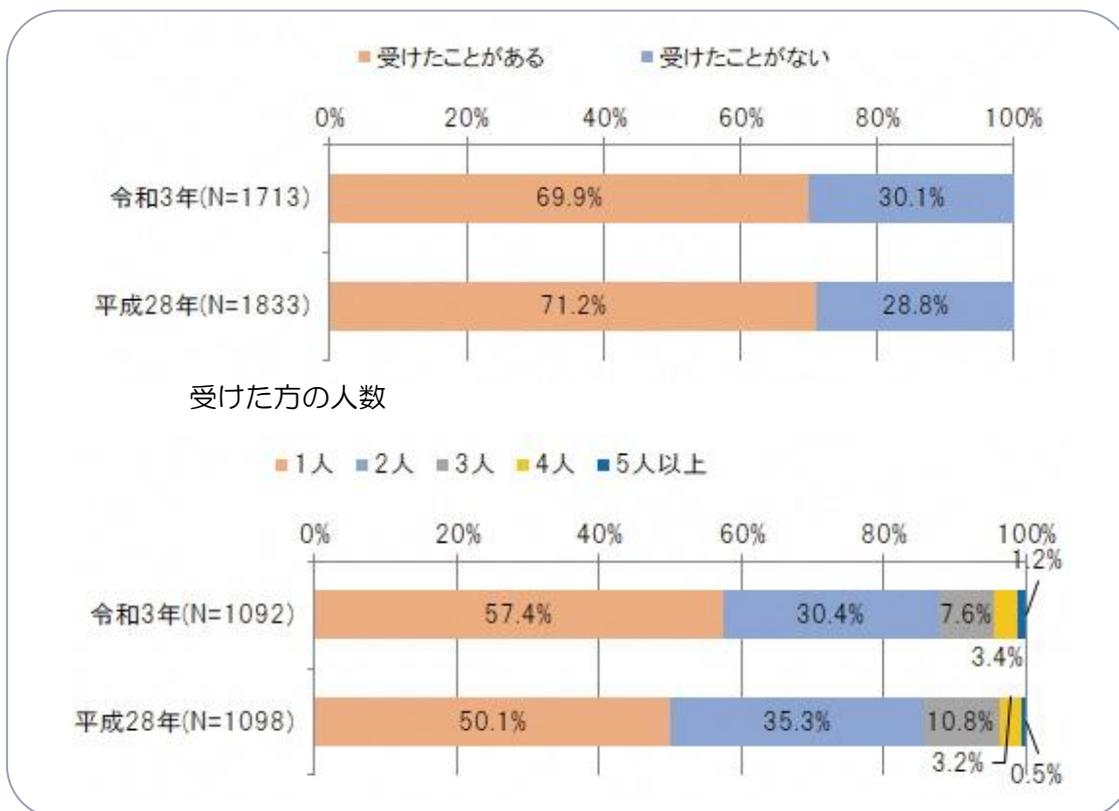
《世帯調査より》



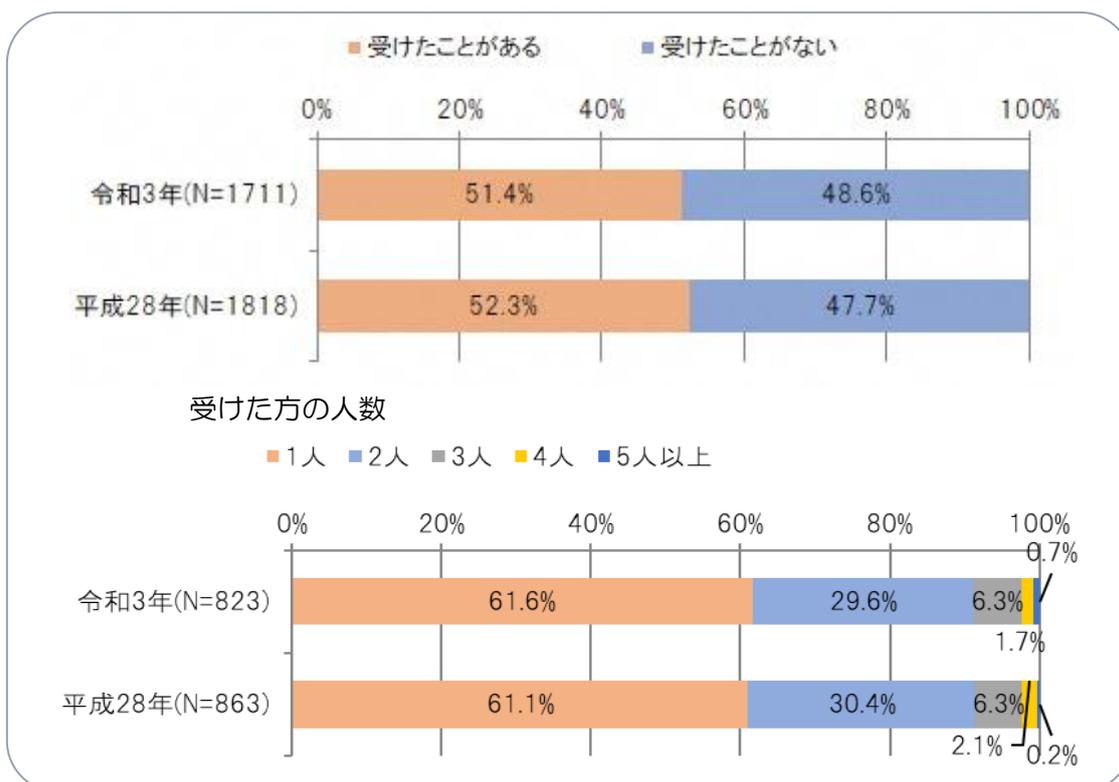
(2) 台風・地震など災害がおきた際に、家族との連絡方法を、家族で相談したことはありますか？ 《世帯調査より》



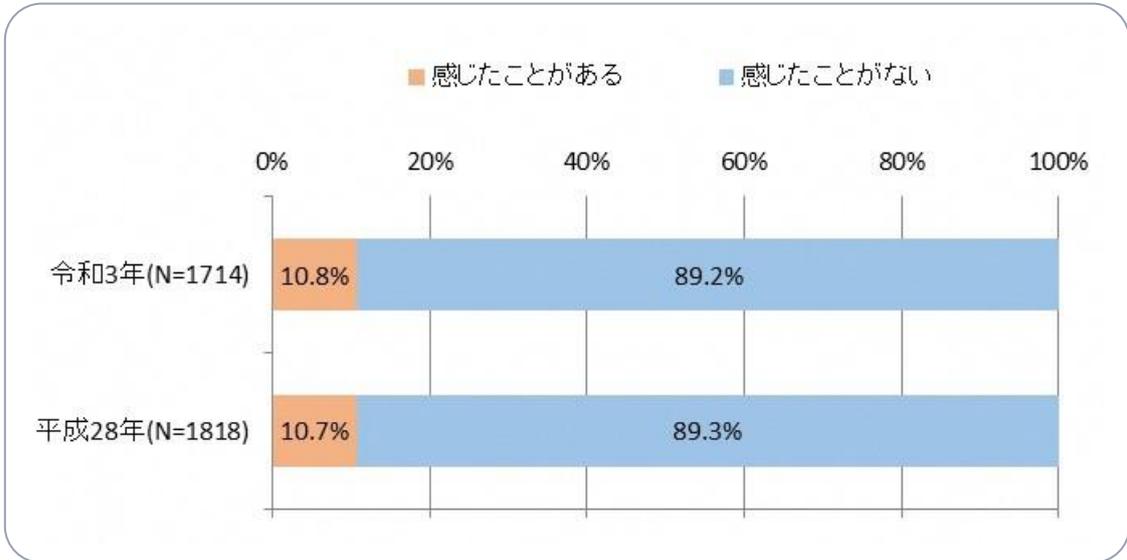
(3) 家族の中に消火訓練（消火器の使い方・集落内の消火栓の使い方講習など）を受けた方はいますか？ 《世帯調査より》



(4) 家族の中に救命手当（人工呼吸・心臓マッサージなど）の講習を受けた方はいますか？ 《世帯調査より》



(5) 家族の中に今まで、犯罪に巻き込まれた又はその危険を感じた方がいますか？
《世帯調査より》

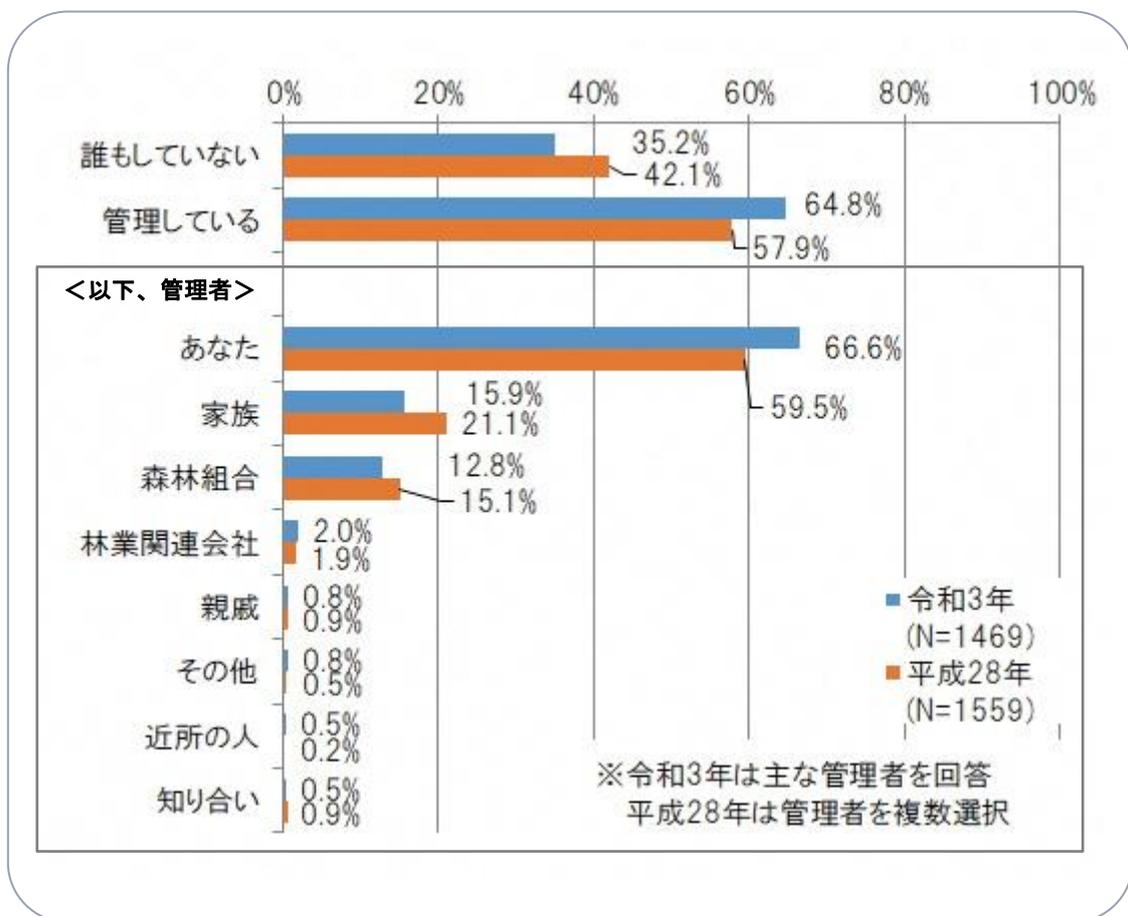


3 集落の環境と運営

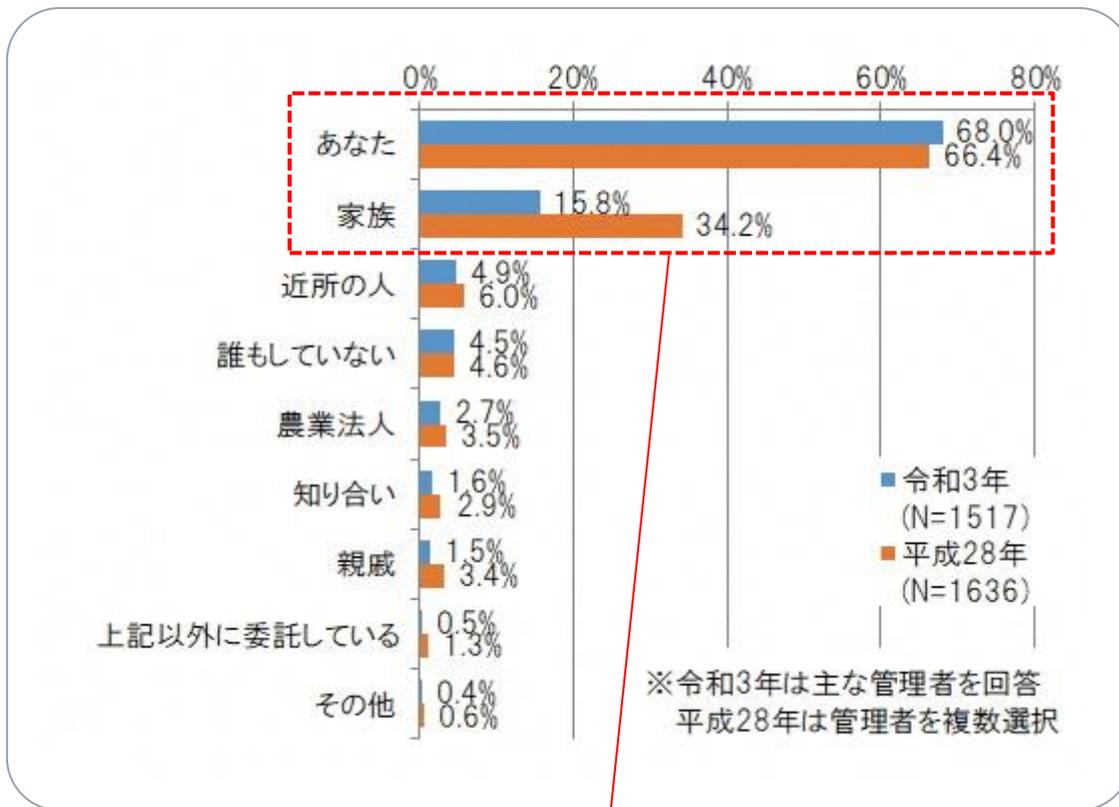
① 山林・農地

- ・山林の管理では「誰もしていない」の割合が 35.2%であり、管理している場合 82.5%が本人・家族の管理となっている。
- ・農地の耕作または管理においても「誰もしていない」が 4.5%となっている。また、耕作している場合でも、「一部の農地を耕作」との回答が 53.8%となっている。

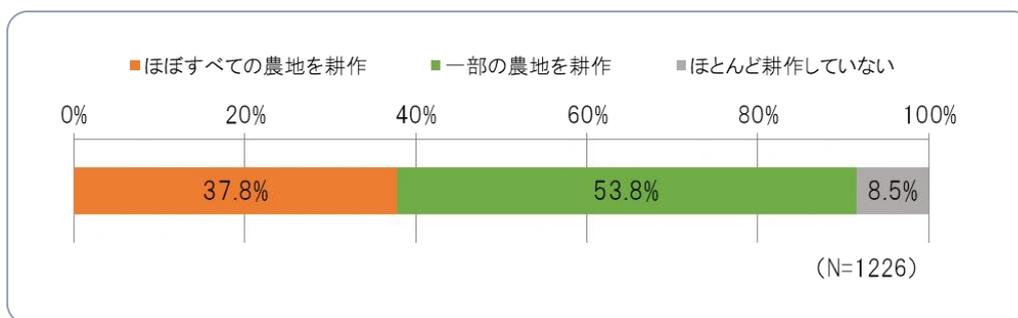
(1) 所有する山林の管理について 《世帯調査より》



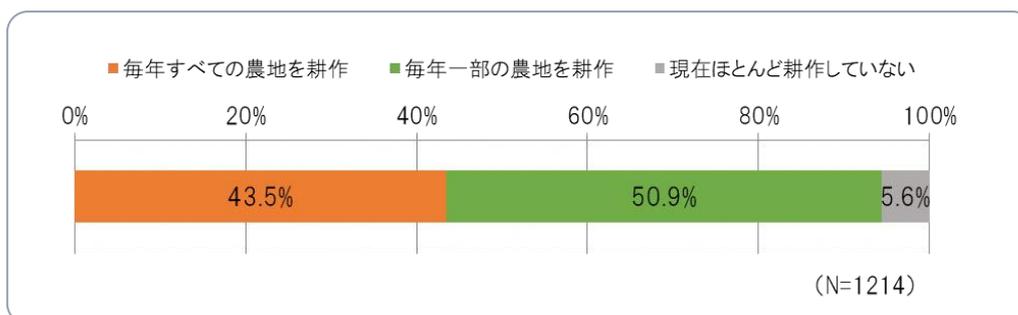
(2) 農地の耕作または管理を誰がしていますか？《世帯調査より》



(あなた・家族が管理している場合の耕作範囲)
令和3年



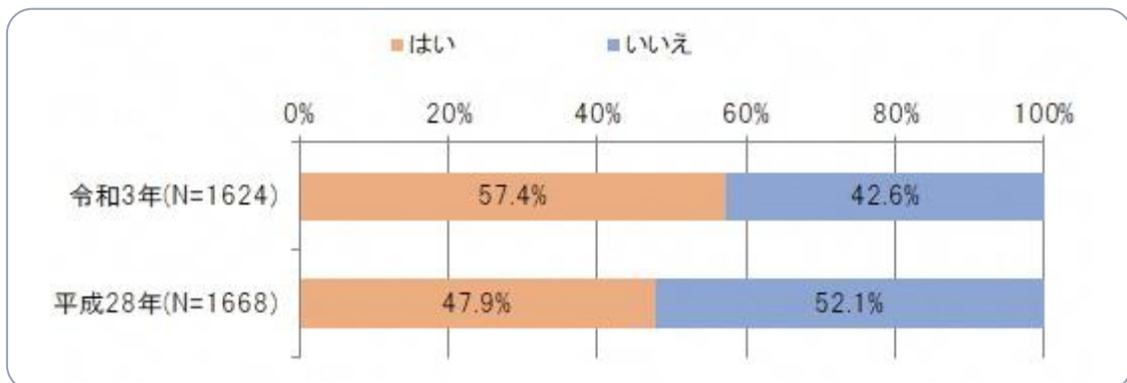
平成28年



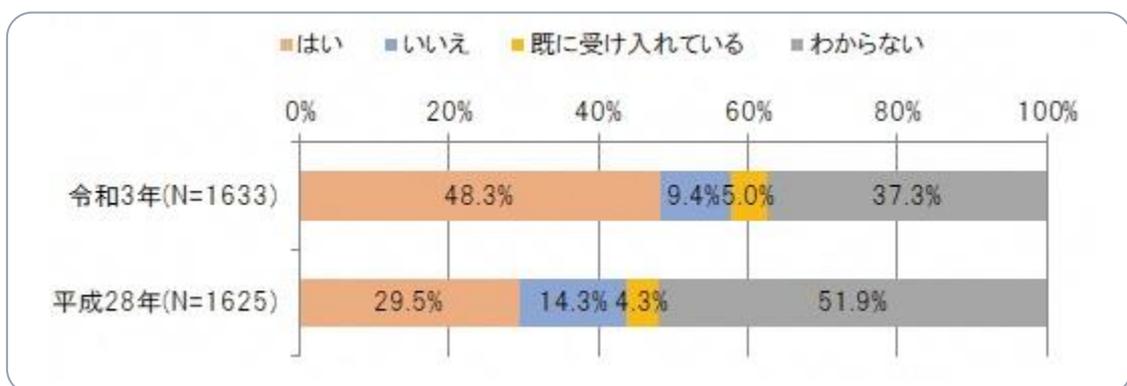
② 地域おこし協力隊・集落支援員

- ・地域おこし協力隊や集落支援員については、57.4%と約半数が「知っている」と回答し、平成28年の調査から9.5ポイント増加している。
- ・集落への受け入れについては、「受け入れたい（はい）」との意向がある世帯が48.3%となっており、平成28年の調査から18.8ポイント増加している。

(1) あなたは「地域おこし協力隊・集落支援員」を知っていますか？《世帯調査より》



(2) あなたは「地域おこし協力隊・集落支援員」を、集落に受け入れたいですか？
《世帯調査より》

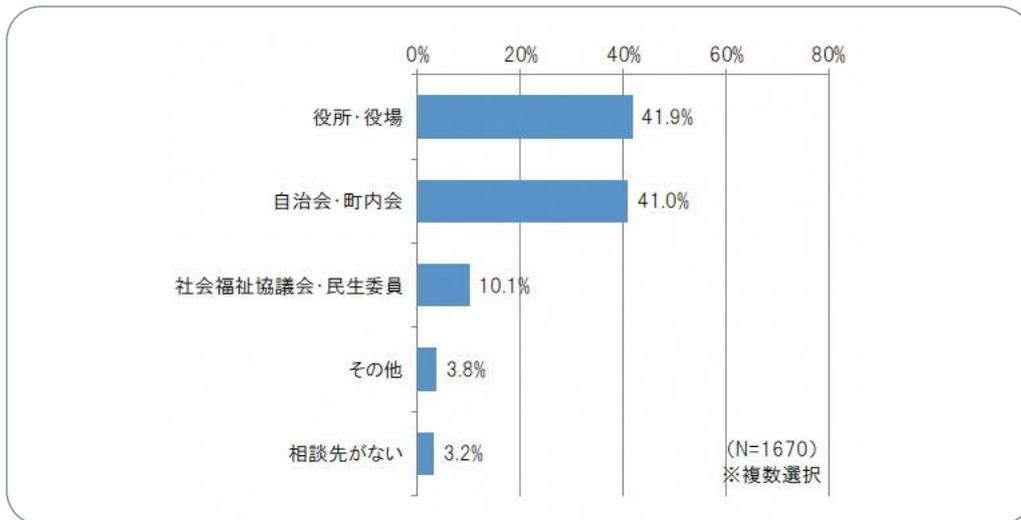


③ 生活環境の相談先、集落活動への参加【新規】

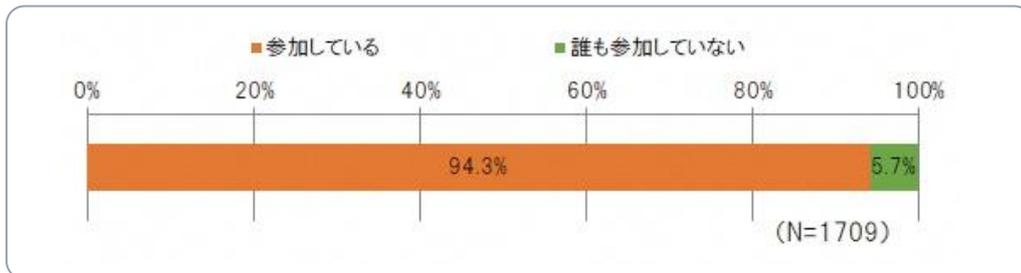
- ・「役所・役場」、「自治会・町内会」が主な相談先となっている。
- ・集落内の「寄り合い」への参加については「参加している」が94.3%、地域活動への参加については91.1%の世帯が「全ての地域活動」「一部の地域活動」に参加していると回答した。

(1) 集落の生活環境で困ったことや異常等に気付いたことがあった場合の相談先

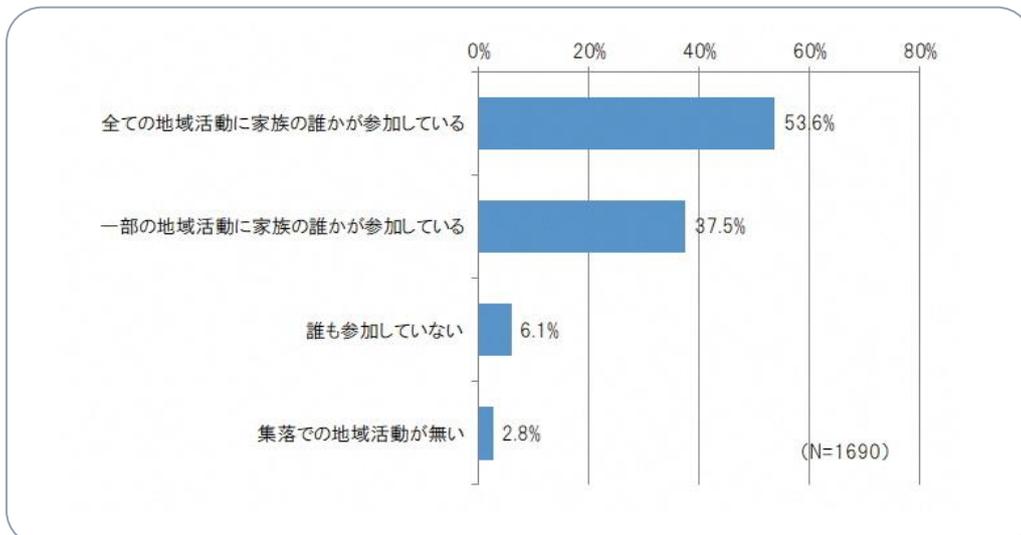
《世帯調査より》



(2) 集落内の「寄り合い」などの集まりへの参加《世帯調査より》



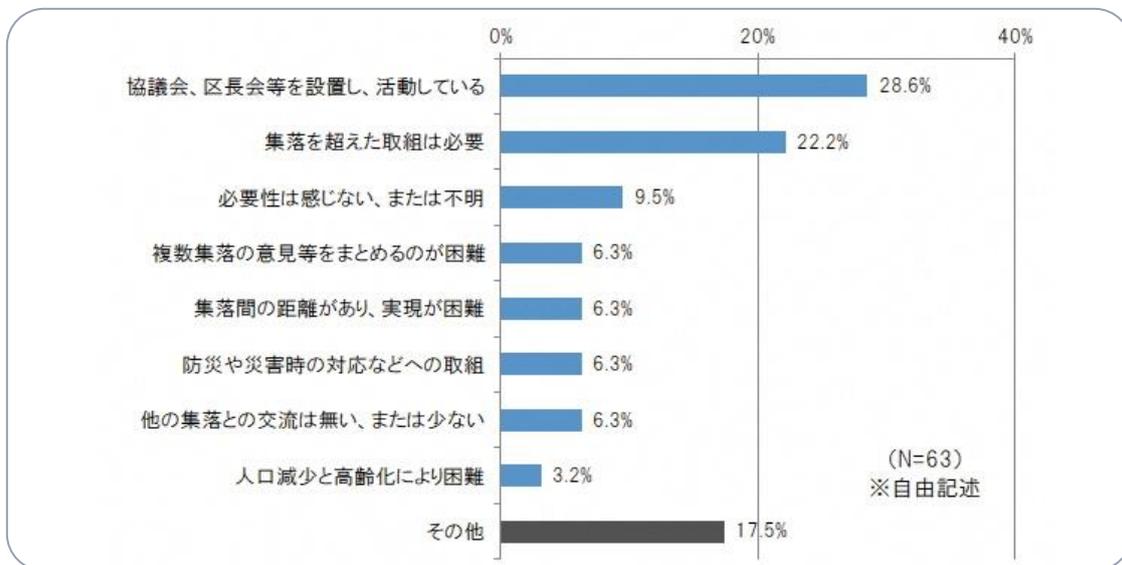
(3) 集落での地域活動への参加《世帯調査より》



④ 集落を超えた取り組みと地域の課題

- ・集落を超えた取り組みについては、協議会等を設置してすでに活動しているという回答や取り組みは必要という回答が多い一方で、集落間の距離があることや人口減少・高齢化を理由に実現は困難と回答した集落もある。
- ・地域の課題については、高齢化対策が最も多く、そのほか、後継者不足、少子化、鳥獣被害対策をあげる回答が多い。またそれに伴い、集落の維持、耕作放棄地の増加、移動手段の確保を危惧する回答がある。

(1) 集落を超えた取り組みについて（自由記述） 《集落点検調査より》



(2) 今現在、地域の中で課題と思われるもの（自由記述） 《集落点検調査より》

